

国際学術情報流通基盤整備事業

(SPARC Japan)

活動のまとめ

平成15（2003）年度～平成20（2008）年度

平成21（2009）年3月
国立情報学研究所
学術基盤推進部
学術コンテンツ課

目次

1	はじめに	1
	国内外の状況	1
	目的及び基本的な考え方	1
	事業内容	1
2	英文学術雑誌の電子ジャーナル支援	3
2.1	パートナー誌の選定	3
2.2	電子ジャーナル刊行状況	6
2.2.1	公開プラットフォーム	6
2.2.2	電子オンリーの出版	7
2.2.3	商業出版社との出版契約	7
2.3	電子投稿査読システム	8
2.4	ビジネスモデルの確立	9
2.4.1	コストの削減、回収	9
2.4.2	パッケージの形成	9
2.4.3	大学図書館コンソーシアムとの契約	10
2.5	プロモーション活動	11
2.6	インパクトファクター	12
2.7	新規プロジェクト	13
2.8	オープンアクセス、機関リポジトリへの方針	14
2.8.1	オープンアクセス	14
2.8.2	機関リポジトリ	14
3	国際連携	16
3.1	SPARC(US)、SPARC Europe	16
3.2	BioOne	16
3.3	Project Euclid	17
4	Advocacy活動の展開	19
4.1	SPARC Japanセミナー	19
4.2	その他	21
4.2.1	国際シンポジウムの開催	21
4.2.2	広報誌「SPARC Japanニュースレター」発行	21
5	調査活動・評価活動	22
5.1	学術英文誌の利用と投稿に関する調査	22
5.2	電子論文投稿システム 比較調査	22
5.3	研究活動及びオープンアクセスに関する調査	22
5.4	研究成果情報発信強化に関する総合的調査	23
5.5	大学図書館から見た国際学術情報流通基盤整備事業パートナー学会及びパートナー誌評価	23
5.6	物理系パートナー誌海外動向調査	23
6	委員会等	24
6.1	国際学術情報流通基盤整備事業評議会・運営委員会	24

6.2	ワーキンググループ等.....	27
6.2.1	総合誌調査委員会.....	27
6.2.2	大学図書館から見た事業評価ワーキンググループ.....	27
6.2.3	SPARC Japanセミナー実行委員会.....	27
6.2.4	SPARC Japanワーキンググループ.....	27
6.3	委員名簿.....	29
6.3.1	国際学術情報流通基盤整備事業評議会.....	29
6.3.2	国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会.....	30
6.3.3	総合誌調査委員会.....	32
6.3.4	大学図書館から見た事業評価ワーキンググループ.....	32
6.3.5	SPARC Japan連続セミナー実行委員.....	33
6.3.6	SPARC Japanワーキンググループメンバー.....	33
7	年表.....	34
8	SPARC Japanセミナー記録.....	40
9	付録：SPARC Japanパートナー誌インパクトファクター変遷表.....	45

1 はじめに

国際学術情報流通基盤整備事業は、日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進する事業として、平成 15（2003）年、国立情報学研究所が開始した事業である。

国内外の状況

学術論文を掲載する学術雑誌の流通については、北米においては 1980 年代から、我が国においても 1990 年代には、価格の高騰、大学図書館での購読タイトル数の減少などが問題になった。これに対抗するため北米、ヨーロッパなどにおいては大学図書館団体が呼びかけて、研究者による学術雑誌刊行の電子化の支援を通して、価格高騰の問題を解決する競争的市場を創出する取り組みが展開され、科学技術・学術情報の一層の効果的な流通を図る試みが結実しつつあり、その顕著な例が、米国における SPARC 活動、ヨーロッパにおける SPARC Europe 活動であった。

我が国においては価格高騰問題に加え、日本の学協会等が刊行する英文論文誌の国際競争力が不十分あり、1990 年代より世界的に進展した学術雑誌の電子ジャーナル化についても立ち遅れた状況であった。これにより、我が国の科学技術・学術活動の研究成果の正当な評価が、阻害されることが危惧された。

目的及び基本的な考え方

国際学術情報流通基盤整備事業は、これらの状況をふまえ、大学図書館等の協力を得つつ、日本の学協会等が刊行する電子化された英文論文誌の流通の促進を図ることによって、学術情報流通の国際的基盤の改善に積極的に寄与するとともに、我が国の科学技術・学術研究の成果の一層の普及を推進することを目的としたものである。

このことの必要性及び基本的な考え方は、第 2 期科学技術基本計画を始め、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤ワーキング・グループの審議にもとづく『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』（平成 14 年 3 月 12 日）において具体的な方策として示された。また、科学技術・学術審議会国際化推進委員会の『科学技術・学術活動の国際化推進方策について（報告）』（平成 15 年 1 月 17 日）においても、重点的に推進すべき方策の一つとして「電子媒体での国際的情報発信の推進」が学術情報流通の基盤整備として重要であるとされている。

事業内容

本事業は第 1 期として平成 15（2003）年度～平成 17（2005）年度の 3 年間実施したのち、第 2 期として平成 18（2006）年度～平成 20（2008）年度、3 年間実施した。

第 1 期では、以下の 5 項目を主要な活動とし、電子ジャーナル化や電子投稿査読システムの導入支援、電子ジャーナル・パッケージ UniBio Press の誕生、ProjectEuclid 等海外関連プロジェクトへの参画などの成果をあげた。

- (1) 事業参画選定誌の募集と活動支援
- (2) 編集工程の電子化支援
- (3) ビジネスモデルの構築支援
- (4) 国際連携の推進
- (5) 調査・啓発活動

第2期では、電子ジャーナル刊行については引き続き本事業による後押しが必要として、3年間を目安として本事業を継続し、第1期で果たせなかった課題の解決を図りながら、学会を超えた横断的な支援活動を行い、自立した学会誌出版活動が醸成される環境の整備を目指し、以下の3項目を主要な活動とした。また、第2期終了時には、パートナー誌を発行する学会は、自立して、持続可能な学術雑誌出版モデルを確立することを目標とし、個別学会誌に対する財政的支援は、第2期をもって終了することとした。

- (1) ビジネスモデルの構築
- (2) 国際連携の推進
- (3) Advocacy 活動

注)

- ・ このまとめでは、第1期、第2期の6年間の活動について総合的にまとめるとともに、パートナー誌の自立的活動と本事業の支援によって得られた成果をできる限り定量的にとらえることができるよう記述した。
- ・ 各パートナー誌の状況を測る資料には、国際学術情報流通基盤整備事業参画提案書、平成20年度 SPARC Japan パートナー誌事業報告（第1期・第2期を通した活動の総括）、SPARC Japan パートナー誌総合カタログを用いた。

2 英文学術雑誌の電子ジャーナル支援

2.1 パートナー誌の選定

平成 15（2003）、16（2004）年度は公募により選定（表 1、表 2）。平成 17（2005）年度は予算、人的資源の制約を考慮して公募を休止し、パッケージ単位での支援を視野に生物系、数学系の新規補充を行った（表 3）。以降、新規の選定は実施していない。

平成 18（2006）年度には Blackwell Publishing での刊行に伴い、Cancer Science をパートナー誌から除外した。また、JSME International Journal が電子オンリーの JSME Jouenals（11 誌）へ変遷し（平成 19（2007）年 1 月～）、Japanese Journal of Applied Physics がレター部分を分離（Applied Physics Express、平成 20（2008）年 1 月～）したことにより、平成 21（2009）年 2 月現在のパートナー誌は、45 誌となっている（表 4）。

表 1：平成 15（2003）年度選定誌（応募：40 機関 51 誌 採択：16 機関 21 誌）

	分野	出版者	ジャーナル名
1	物理	日本物理学会（物理系学術誌刊行協会）	Journal of the Physical Society of Japan
2		応用物理学会（物理系学術誌刊行協会）	Japanese Journal of Applied Physics
3	情報通信	電子情報通信学会	IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences
4			IEICE Transactions on Communications
5			IEICE Transactions on Electronics
6			IEICE Transactions on Information and Systems
7			IEICE Electronics Express
8	化学	日本分析化学会	Analytical Sciences
9		日本生物工学会	Journal of Bioscience and Bioengineering
10		化学工学会	Journal of Chemical Engineering of Japan
11		高分子学会	Polymer Journal
12	生物	日本哺乳類学会	Mammal Study
13		日本哺乳動物卵子学会	Journal of Mammalian Ova Research
14	数学	日本動物学会	Zoological Science
15		東北大学大学院理学研究科数学専攻	Tohoku Mathematical Journal
16		東京工業大学大学院理工学研究科数学専攻	Kodai Mathematical Journal
17	人文	上智大学	Monumenta Nipponica
18	材料	日本金属学会ほか	Materials Transactions
19	医学	日本癌学会	Cancer Science
20		日本生理学会	The Japanese Journal of Physiology
21	機械	日本機械学会	JSME International Journal ^{*1}

*1) JSME International Journal は Series A、B、C の 3 分冊

表 2：平成 16（2004）年度新規選定誌（応募：15 機関 20 誌 採択：9 機関 9 誌）

	分野	出版者	ジャーナル名
1	物理	理論物理刊行会（物理系学術誌刊行協会）	Progress of Theoretical Physics
2	情報通信	情報処理学会	IPSJ Digital Courier ^{*1}

3	化学	日本農芸化学会	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry
4	生物	日本鳥学会	Ornithological Science
5		日本古生物学会	Paleontological Research
6	数学	名古屋大学大学院多元数理科学研究科	Nagoya Mathematical Journal
7		日本学士院	Proceedings of the Japan Academy, Series A : Mathematical Sciences
8	医学	日本アレルギー学会	Allergology International
9		日本薬物動態学会	Drug Metabolism and Pharmacokinetics

表 3 : 平成 17 (2005) 年度新規選定誌 (採択 : 5 機関 5 誌)

	分野	出版者	ジャーナル名
1	生物	日本爬虫両棲類学会	Current Herpetology
2	数学	大阪大学大学院理学研究科数学専攻/大阪市立大学大学院理学研究科数学専攻	Osaka Journal of Mathematics
3		京都大学数理解析研究所	Publications of Research Institute for Mathematical Sciences
4		広島大学大学院理学研究科数学教室	Hiroshima Mathematical Journal
5		日本数学会	Journal of Mathematical Society of Japan

表 4 : 平成 21 (2009) 年 3 月現在のパートナー誌一覧 (45 誌)

	分野	出版者	ジャーナル名
1	物理	日本物理学会 (物理系学術誌刊行センター*1)	Journal of the Physical Society of Japan
2		応用物理学会 (物理系学術誌刊行センター*1)	Japanese Journal of Applied Physics
3			Applied Physics Express*2
4		理論物理刊行会 (物理系学術誌刊行センター*1)	Progress of Theoretical Physics
5	情報通信	電子情報通信学会	IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences
6			IEICE Transactions on Communications
7			IEICE Transactions on Electronics
8			IEICE Transactions on Information and Systems
9			IEICE Electronics Express*6
10		情報処理学会	Journal of Information Processing*3*6
11	化学	日本分析化学会	Analytical Sciences
12		日本生物工学会	Journal of Bioscience and Bioengineering
13		化学工学会	Journal of Chemical Engineering of Japan
14		高分子学会	Polymer Journal
15		日本農芸化学会	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry
16	生物	日本哺乳類学会	Mammal Study
17		日本哺乳動物卵子学会	Journal of Mammalian Ova Research
18		日本動物学会	Zoological Science
19		日本鳥学会	Ornithological Science
20		日本古生物学会	Paleontological Research
21		日本爬虫両棲類学会	Current Herpetology
22	数学	東北大学大学院理学研究科数学専攻	Tohoku Mathematical Journal
23		東京工業大学大学院理工学研究科数学専攻	Kodai Mathematical Journal
24		名古屋大学大学院多元数理科学研究科	Nagoya Mathematical Journal
25		日本学士院	Proceedings of the Japan Academy, Series A :

			Mathematical Sciences
26		大阪大学大学院理学研究 科数学専攻/大阪市立大 学大学院理学研究科数学 専攻	Osaka Journal of Mathematics
27		京都大学数理解析研究所	Publications of Research Institute for Mathematical Sciences
28		広島大学大学院理学研究 科数学教室	Hiroshima Mathematical Journal
29		日本数学会	Journal of Mathematical Society of Japan
30	人文	上智大学	Monumenta Nipponica
31	材料	日本金属学会ほか	Materials Transactions
32	医学	日本生理学会	The Journal of Physiological Science*4
33		日本アレルギー学会	Allergology International
34		日本薬物動態学会	Drug Metabolism and Pharmacokinetics
35	機械	日本機械学会	Journal of Fluid Science and Technology*5*6
36			Journal of Thermal Science and Technology*5*6
37			Journal of Biomechanical Science and Engineering*5*6
38			Journal of Environment and Engineering*5*6
39			Journal of Solid Mechanics and Materials Engineering*5*6
40			Journal of System Design and Dynamics *5*6
41			Journal of Advanced Mechanical Design、 Systems、 and Manufacturing*5*6
42			Journal of Power and Energy Systems*5*6
43			Journal of Computational Science and Technology*5*6
44			Journal of Space Engineering*5*6
45			Journal of Mechanical Systems for Transportation and Logistics*5*6

*1)平成 20 (2008) 年 4 月より、「物理系学術刊行協会」より改組。日本物理学会、応用物理学会の内部組織。

*2)平成 20 (2008) 年 1 月、Japanese Journal of Applied Physics から分離。

*3)平成 20 (2008) 年 4 月誌名変更 IPSJ Digital Courier→Journal of Information Processing

*4)平成 18 (2006) 年誌名変更 The Japanese Journal of Physiology→The Journal of Physiological Sciences

*5)平成 19 (2007) 年 1 月、JSME International Journal より変遷 (11 誌)

*6)電子オンリージャーナル

2.2 電子ジャーナル刊行状況

2.2.1 公開プラットフォーム

採択時の各パートナー誌の論文本文情報の公開方法は、表 5 のとおりである。採択の時点では電子化されていないジャーナルが 8 タイトルあった。学協会等の自前サーバでの公開数が、14 となっているが、学会ホームページへの PDF 掲載など、本格的な電子ジャーナル公開とは言い難い状況のものも含まれていた。また、初号から電子化し公開しているタイトルは、2 タイトルのみであり、全体の 6% に満たなかった。

平成 21 (2009) 年 2 月では、全てのジャーナル (45 誌) が電子ジャーナルとして、J-STAGE、学協会サーバ、その他のプラットフォームから公開されている。また、7 割以上のジャーナルは初号から電子化公開している。

また、材料系では、「材料系英文誌ポータルサイト」を平成 18 (2006) 年 3 月に開設し、6 誌の書誌情報を収録・公開した。

表 5 : 採択時の公開プラットフォーム

分野／プラットフォーム	物理	情報通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計
Blackwell								1		1
J-STAGE	3		5	3				1	1	13
JSTOR						1(1)				1(1)
Project Euclid					1					1
ScienceDirect			1							1
自サーバ	3	4	1	1	1		1(1)	3		14(1)
なし				2	6					8
未創刊		2								2
タイトル数	3	6	5	6	8	1(1)	1(1)	4	1	35(2)

(タイトル数)

※1 誌が複数のプラットフォームで公開している場合は重複カウント

※0内は初号から公開しているタイトル数

※JSTOR は発行から 5 カ年経過後の掲載

表 6 : 平成 21 (2009) 年 2 月現在の公開プラットフォーム

分野／プラットフォーム	物理	情報通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計
BioOne				6						6
J-STAGE	4 (3)	6 (2)	4 (4)	6 (1)	2 (1)		1 (1)	3	11 (11)	37 (23)
JSTOR						1 (1)				1 (1)
Project Euclid					8 (6)					8 (6)
Project MUSE						1				1
ScienceDirect			1							1
SpringerLink								1		1
自サーバ	4 (4)	4 (4)					1 (1)	1		10 (9)
タイトル数	4 (4)	6 (6)	5 (4)	6	8 (6)	1 (1)	1 (1)	3	11 (11)	45 (33)

(タイトル数)

※1 誌が複数のプラットフォームで公開している場合は重複カウント

※0内は初号から公開しているタイトル数

※JSTOR は発行から 5 カ年経過後の掲載

2.2.2 電子オンリーの出版

情報通信系では、電子版のみを発行する電子オンリーのジャーナル 2 誌が創刊された。機械系では、従来の雑誌を電子オンリーの雑誌 11 誌へ変更した。この結果、電子オンリーで発行されているパートナー誌は 13 誌となった（表 7）。このほか、化学系でも平成 21（2009）年より Journal of Chemical Engineering of Japan が電子版主体の刊行となり、冊子は年 3 回の合本オプションとなっている。

表 7：電子オンリーのジャーナル

	出版者	創刊（電子オンリー化）	ジャーナル名
1	電子情報通信学会	平成 16（2004）年 4 月	IEICE Electronics Express
2	情報処理学会	平成 17（2005）年 1 月	Journal of Information Processing* ¹
3	日本機械学会	平成 19（2007）年 1 月* ²	Journal of Fluid Science and Technology
4			Journal of Thermal Science and Technology
5			Journal of Biomechanical Science and Engineering
6			Journal of Environment and Engineering
7			Journal of Solid Mechanics and Materials Engineering
8			Journal of System Design and Dynamics
9			Journal of Advanced Mechanical Design、Systems、 and Manufacturing
10			Journal of Power and Energy Systems
11			Journal of Computational Science and Technology
12			Journal of Space Engineering
13			Journal of Mechanical Systems for Transportation and Logistics

*1)平成 17（2005）年 1 月・平成 18（2006）年 3 月「IPSJ Digital Courier」→平成 18（2006）年 4 月～「Journal of Information Processing」（誌名変更）

*2)平成 18（2006）年までは「JSME International Journal」。冊子刊行。

2.2.3 商業出版社との出版契約

活動中に商業出版社と契約を結び、当該出版社からの出版を行った（または行う予定の）パートナー誌は以下のようになっている。

特に第二期後半には、この決断をするジャーナルが 3 ジャーナルにのぼった。

平成 17(2005)年～ Cancer Science: Blackwell Publishing と出版契約

平成 21(2009)年～ Journal of Bioscience and Bioengineering: Elsevier と出版契約

平成 21(2009)年～ The Journal of Physiological Science: Springer との出版契約

平成 22(2010)年～ Polymer Journal: Nature との共同出版

2.3 電子投稿査読システム

採択時の各パートナー誌の電子投稿査読システムの導入状況は、表 8 のとおりである。採択の時点で電子投稿査読システムを利用していたジャーナルは 7 タイトル(3 学協会)のみであり、すべて自作システムであった。

平成 20 (2009) 年 2 月では自作システム以外にも、J-STAGE、商用システム等を活用し 7 割以上のジャーナルが電子投稿査読システムを導入済みである (表 9)。

パートナー誌の総括では、導入の効果として査読時間の短縮、海外からの投稿数増加に効果があったことが報告されている。

表 8 : 採択時の電子投稿査読システム

分野／種類	物理	情報通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計
なし	1		5	6	8	1	1	3	1	26
自作システム	2	4						1		7
未創刊		2								2
総計	3	6	5	6	8	1	1	4	1	35

(タイトル数)

表 9 : 平成 21 (2009) 年 2 月現在の電子投稿査読システム

分野／種類	物理	情報通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計
なし			1	3	8	1				13
J-STAGE			3							3
Elsevier Editorial System			1							1
Manuscript Central				2				3		5
アイペック	4	6		1			1		11	22
自作システム	4	6					1		11	22
総計	4	6	5	6	8	1	1	3	11	45
導入率	100%	100%	80%	50%	0%	0%	100%	100%	100%	71%

(タイトル数)

図 1 : 採択時投稿査読システム

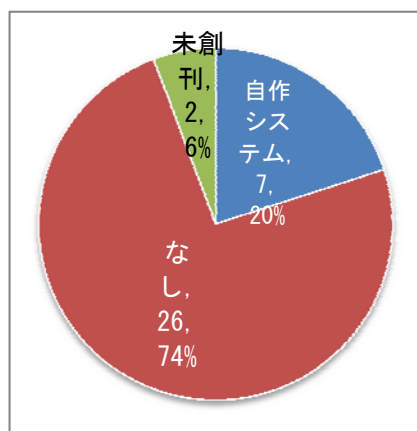
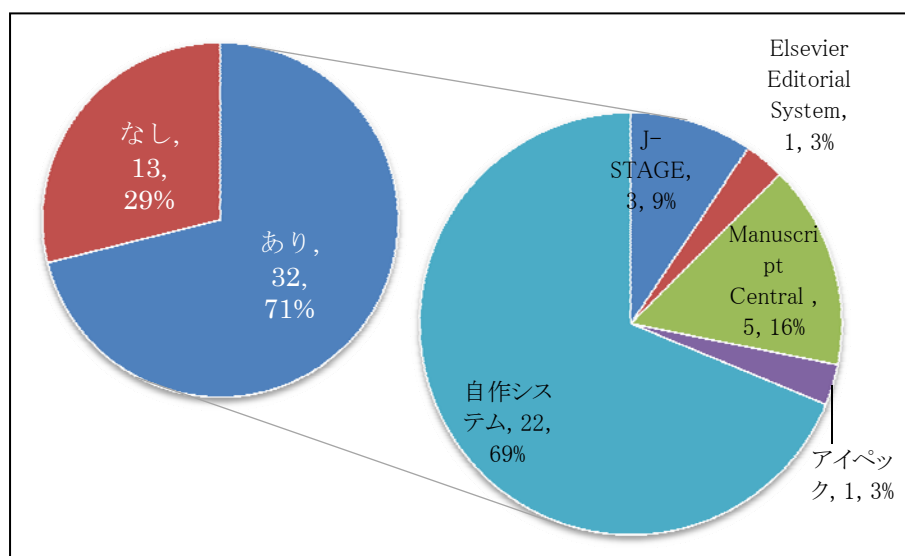


図 2 : 投稿査読システム (2009 年 2 月)



2.4 ビジネスモデルの確立

2.4.1 コストの削減、回収

電子ジャーナルを安定的に発行するための収入確保については、パートナー誌の総括報告として、以下があげられた。

- ・掲載料の徴収により電子ジャーナル制作費用をまかなうことができた
- ・電子出版を中心として出版形態へ移行し、コスト削減を実現
- ・電子ジャーナル販売による収入増加

ジャーナル発行にかかるすべての費用をまかなうまではいかなくても安定発行へ向けてパートナー誌の努力が払われている。

2.4.2 パッケージの形成

我が国初の電子ジャーナル・パッケージとして、生物系 6 学協会のパートナー誌 6 誌により、平成 15（2003）年、UniBioPress が誕生した。

現在、パッケージとして販売しているパートナー誌は表 10 のとおりである。

表 10：パッケージ一覧

パッケージ名称 (成立年)	参加ジャーナル	出版者	JANUL、 PULC と の契約
UniBio Press (平成 15 (2003) 年)	1. Mammal Study 2. Journal of Mammalian Ova Research 3. Zoological Science 4. Ornithological Science(H16-) 5. Paleontological Research(H16-) 6. Current Herpetology(H17-)	日本哺乳類学会 日本哺乳動物卵子学 会 日本動物学会 日本鳥学会 日本古生物学会 日本爬虫両棲類学会	平成 16 (2004) 年～
IEICE (平成 20 (2008) 年)	1. IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics、 Communications and Computer Sciences 2. IEICE Transactions on Communications 3. IEICE Transactions on Electronics 4. IEICE Transactions on Information and Systems	電子情報通信学会	平成 21 (2009) 年～
SCEJ (平成 20 (2008) 年)	1. Journal of Chemical Engineering of Japan 2. 化学工学論文集*1 3. 化学工学*1	化学工学会	未提案

*1)パートナー誌外。

2.4.3 大学図書館コンソーシアムとの契約

UniBioPress、IEICE および Materials Transactions は、国立大学図書館協会（JANUL）、公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）とのコンソーシアム条件の交渉を実施し、UniBioPress、IEICE については両コンソーシアムとの契約が成立している。

Materials Transactions についても条件の合意に向けて引き続き交渉を行っているところである。

また、平成 19（2007）年 12 月には、「SPARC Japan パートナー誌のコンソーシア購入に向けて－パートナー誌と大学図書館の合同会議－」を開催し、パートナー誌と大学図書館が意見交換をしてコンソーシアム契約拡大のための具体策を検討した。

2.5 プロモーション活動

SPARC Japan 事業の広報とパートナー誌のプロモーションのために、第 2 期以降、国内外の会議等での出展活動を支援した（表 11）。

平成 20（2008）年度には、事業全体の効果的なプロモーションのため、とりまとめの仕組みを作った上で、全体を管理することが必要であるとして、国際学術情報流通基盤運営委員会のもとに「SPARC Japan ワーキンググループ」を組織し、年間のプロモーション・調査等活動計画の策定・調整・成果普及を行った。

プロモーション活動の中でも、特に、化学系パートナー誌は、合同で 2 年間にわたり国際会議でのプロモーション活動を実施し、知名度の向上、投稿数の増加に効果があった。

（※化学系合同プロモーションについては SPARC Japan ニュースレター第 1 号参照）

表 1 1：会議等出展状況

分野／ 年度	種類	物理	情報 通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	全体	総 計
平成 19 (2007) 年度	海外（学会）	1		2								3
	海外（図書館）											0
	国内（学会）											0
	国内（図書館）										1	1
平成 20 (2008) 年度	海外（学会）	1	2	3					1			7
	海外（図書館）										2	2
	国内（学会）											0
	国内（図書館）										3	3

（回数）

学会：研究者等投稿者層を対象とした会議等への出展

図書館：図書館関係者等購読者層を対象とした会議等出展

2.6 インパクトファクター

2009 年 2 月現在、Web of Science に採録されているパートナー誌は 27 誌である（表 12）。このうち、以下の 5 誌については、本事業に選定後新たに採録された（2～5.については 2008 年以降の採録のためインパクトファクター未発表）。

また、インパクトファクターが付与されているパートナー誌は 23 誌である（表 13）。

1. IEICE Electronics Express (電子情報通信学会)
2. Paleontological Research (日本古生物学会)
3. Kodai Mathematical Journal (東京工業大学大学院理工学研究科数学専攻)
4. Drug Metabolism and Pharmacokinetics (日本薬物動態学会)
5. Journal of Thermal Science and Technology (日本機械学会)

表 1 2：平成 21（2009）年 2 月現在 WoS 採録（採録予定）状況

分野／採録	物理	情報 通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計	割合
なし	1	1	0	4	1	0	0	1	10	18	40%
あり	3	5	5	2	7	1	1	2	1	27	60%
総計	4	6	5	6	8	1	1	3	11	45	

(タイトル数)

表 1 3：平成 21（2009）年 2 月現在インパクトファクター付与状況

分野／採録	物理	情報 通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計	割合
なし	1	1	0	5	2	1	0	2	11	23	51%
あり	3	5	5	1	6	0	1	1	0	22	49%
総計	4	6	5	6	8	1	1	3	11	45	

(タイトル数)

内訳は、p46 SPARC Japan パートナー誌インパクトファクター変遷表を参照のこと。

注)

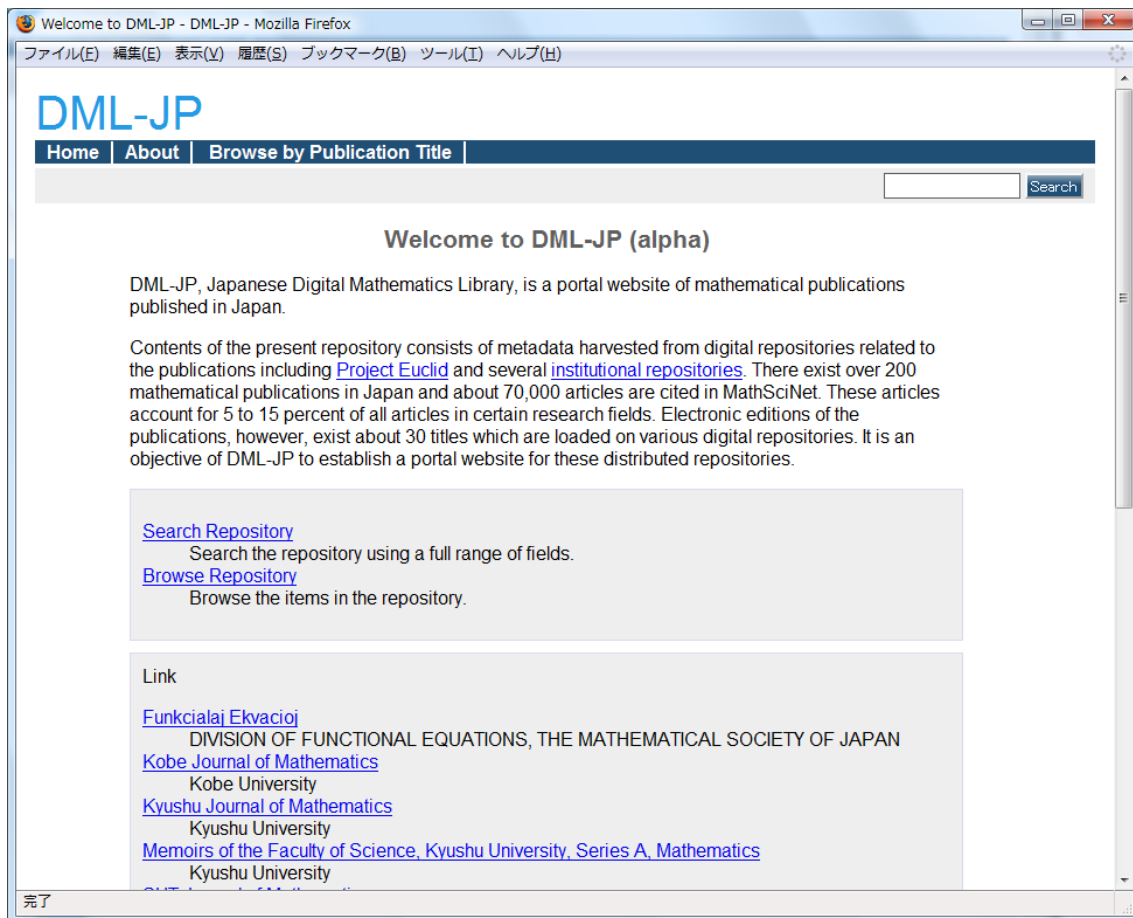
- ・ インパクトファクターは、過去 2 年間の当該ジャーナルに掲載された論文数及び被引用回数で算出されるため、表 12 と表 13 の数は一致しない。

2.7 新規プロジェクト

事業の新しい方向性を探るために、研究分野を軸とするプラットフォームと研究機関を軸とする機関リポジトリのコンテンツとを連携し、我が国の大学の成果の発信と国際的認知度向上のための新しい方策を検証するプロジェクトを平成 20（2008）年度より試行的に実施している。

平成 20（2008）年度はメタデータハーベスティングを基盤として数学系ジャーナルのポータルを構築し、付加価値サービスを提供した。

[数学ポータル DML-JP] <http://dmljp.math.sci.hokudai.ac.jp/>



2.8 オープンアクセス、機関リポジトリへの方針

平成 19 (2007) 年 12 月のパートナー誌と大学図書館の合同会議において、パートナー誌に対し、オープンアクセスに対する NII の立場を次のように説明した。

オープンアクセス：著者支払モデルの可能性を追求

- ◆ 出版コストの負担を購読者（図書館）から著者にシフト
- ◆ 研究費の充当を推奨
- ◆ 機関やコンソーシアムによる包括的支払も可能

機関リポジトリ：リポジトリフレンドリーなポリシーがパートナー誌の条件

- ◆ ポストプリント（出版社版）の掲載
- ◆ 制約条件として 1 年以内の据え置き

2.8.1 オープンアクセス

パートナー誌中、約半数が、アクセス制限を一切設けずオープンアクセスで公開されており、22%のジャーナルが刊行から 1～5 年のコンテンツをオープンアクセスとしている（表 14、図 3）。

また、物理系のジャーナルでは *Journal of the Physical Society of Japan* のように著者がオプション料金を支払うことによりオープンアクセスとするモデル（著者支払モデル）を設定しているものも登場している。

[JPSJ OPEN SELECT] : <http://jpsj.ipap.jp/os/>

オープンアクセスで公開中のパートナー誌の中には、今後もこの形態で公開していく方針が明確なジャーナルもあれば、その形態を再検討することを余儀なくされていると報告されているものもある。

表 14：平成 20 (2009) 年 2 月現在オープンアクセスへの対応状況

OA／分野	物理	情報 通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計
OA		2	2		5			2	11	22
バックナンバーOA				6	3			1		10
なし	4	4	3			1	1			13
総計	4	6	5	6	8	1	1	3	11	45
OA 対応率	0%	33%	40%	100%	100%	0%	0%	100%	100%	71%

(タイトル数)

2.8.2 機関リポジトリ

機関リポジトリについては、パートナー誌の 80%が著者版あるいは出版者版の搭載を許可している。中でも、UniBioPress が機関リポジトリ連合 (DRF) と協力して機関リポジトリへ論文を提供したり、また、*Osaka Mathematical Journal* は発行機関である大阪市立大学、大阪大学の機関リポジトリに対してファイルの提供を実施するなど、機

関リポジトリとの連携は徐々に進められている。

しかし、いまだに「検討中」とするジャーナルが6誌ある（表15、図4）。また、関リポジトリへの掲載を許可していても、有料、機関が会員であることなどの条件を設けているジャーナルもある。

表15：平成20（2009）年2月現在関リポジトリへの対応状況

分野／IRポリシー	物理	情報通信	化学	生物	数学	人文	材料	医学	機械	総計
著者版	2		2		2			1		7
出版者版		6	2	5	3		1		11	28
著者版／出版社版					1					1
検討中	2			1	2	1				6
許可しない			1					2		3
総計	4	6	5	6	8	1	1	3	11	45
許可率	50%	100%	80%	83%	75%	0%	100%	33%	100%	80%

（タイトル数）

図3：オープンアクセス

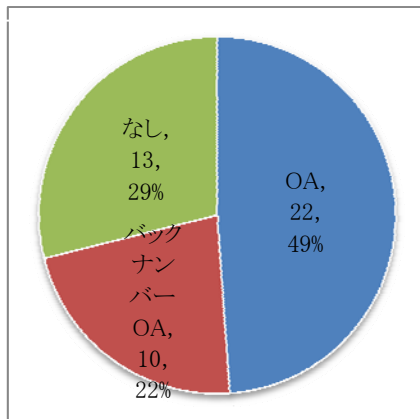
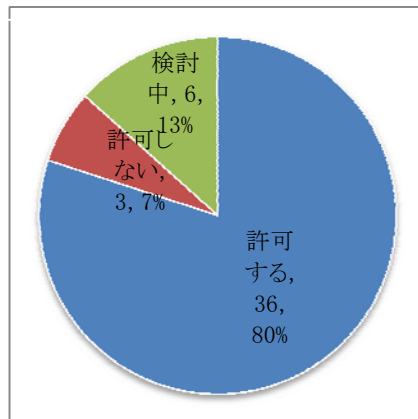


図4：関リポジトリ方針



3 国際連携

3.1 SPARC(US)、SPARC Europe

事業開始当時より欧米 SPARC との連携を前提に活動したが、平成 18（2006）年 3 月、国立情報学研究所が研究図書館協会（the Association of Research Libraries、ARL）と覚書（Memorandum of Understanding、MOU）を締結し、正式に SPARC Japan の名称で事業を展開することとなった。

連携に関連して、表 16 のような活動を展開した。

表 16：SPARC、SPARC Europe との連携

年月日	活動
平成 16（2004）年 3 月 19 日	SPARC（US）訪問。MOU に関する打ち合わせ
平成 16（2004）年 6 月 16-17 日	SPARC（US）訪問。MOU に関する打ち合わせ
平成 16（2004）年 11 月 15 日	James G. Neal 氏（SPARC 運営委員会議長・コロンビア大学）との打ち合わせ
平成 16（2004）年 11 月 18-19 日	Institutional Repositories: The Next Stage（SPARC、SPARC Europe 主催）への出席
平成 17（2005）年 1 月 11-12 日	SPARC（US）訪問。MOU に関する打ち合わせ
平成 17（2005）年 3 月 22-25 日	SPARC（US）Richard Johnson（SPARC ディレクター）氏来日。 3/22-24 MOU に関する打ち合わせ 3/23 JST との打ち合わせ、文部科学省学術情報基盤作業部会学術情報発信 WG との懇談 3/24 シンポジウムでの講演
平成 17（2005）年 6 月 23 日	SPARC（US）訪問。MOU に関する打ち合わせ
平成 18（2006）年 3 月	MOU 締結。国際学術情報流通基盤整備事業が SPARC Japan として正式に活動開始
平成 18（2006）年 12 月 18 日	MOU 締結のプレスリリース（SPARC（US））
平成 18（2006）年 12 月 18-19 日	「デジタル巨人の肩の上に立つ」機関リポジトリ、e-サイエンス、および学術コミュニケーションの将来に関する国際シンポジウム開催 Heather Joseph 氏（SPARC 事務局長）、講演者として来日
平成 19（2007）年 11 月	SPARC Digital Repositories Meeting 2008 プログラム委員就任
平成 20（2008）年 10 月 14 日	OpenAccessDay にあわせて SPARC Japan セミナー2008 【Open Access Day 特別セミナー】「日本における最適なオープンアクセスとは何か？」を開催
平成 20（2008）年 11 月 17-18 日	SPARC Digital Repositories Meeting 2008 開催（メリーランド州ボルチモア。）SPARC、SARC Europe、SPARC Japan 共同主催
平成 21（2008）年 3 月	Open Access Week（2009/10/19-23）に partner として協力

3.2 BioOne

BioOne は、米国 SPARC が支援する生物系の電子ジャーナルプラットフォームである。

平成 19（2007）年 1 月に、UniBioPress と BioOne との連携が成立し、UniBio Press

は BioOne の補完的コレクションである BioOne.2 に参画することにより、世界的な販路を開いた。BioOne.2 は、現在（平成 21（2009）年）、58 タイトルを収録し、その多くがインタナショナルジャーナルである。

BioOne との連携にもとづき、表 17 のような活動を展開した。

表 17 : BioOne との連携

年月日	活動
平成 17 (2005) 年 1 月 10 日	BioOne 訪問。打ち合わせ
平成 17 (2005) 年 6 月 23 日	BioOne 訪問。打ち合わせ
平成 19 (2007) 年 1 月	UniBioPress BioOne.2 へ参画
平成 19 (2007) 年 4 月 11 日	BioOne Publishers & Partners Meeting 出席
平成 19 (2007) 年 4 月 14 日	BioOne 訪問。打合せ
平成 19 (2007) 年 5 月 15 日, 17 日	Uni Bio Press セミナー開催 Susan Skomal 氏 (BioOne 事務局長)、講演者として来日
平成 20 (2008) 年 4 月 18 日	BioOne Publishers & Partners Meeting 出席
平成 20 (2008) 年 4 月 19 日	BioOne 訪問。打合せ

[BioOneについて] <http://www.bioone.org/>

3.3 Project Euclid

Project Euclid は、米国 SPARC が支援する数学系の電子ジャーナルプラットフォームである。システム開発・運営はコーネル大学、販売はデューク大学出版局が実施している。

本事業の数学系パートナー誌 8 誌はすべてこのプラットフォームを利用して電子ジャーナルを公開中である。

ProjectEuclid との連携に関連して表 18 のような活動を展開した。

表 18 : Project Euclid との連携

年月日	活動
平成 16 (2004) 年 1 月 19-30 日	Project Euclid 来日 (Teresa Ehling 氏、David Ruddy 氏) 1/22 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースとの会合 1/23 Euclid 説明会 (東北大学) 1/23-28 数学系ジャーナルとの個別打合せ
平成 16 (2004) 年 9 月 27 日	Project Euclid 懇談会 ProjectEuclid David Raddy 氏、来日。
平成 16 (2004) 年 10 月 19-20 日	DPubS : a digital publishing Conference 出席 (コーネル大学)
平成 17 (2005) 年 1 月 25 日-2 月 3 日	ProjectEuclid 来日 (Teresa Ehling 氏、Judy Luther 氏、David Ruddy 氏) 1/26-2/1 数学系ジャーナルとの個別打合せ

	1/27 ワークショップ「電子ジャーナルのビジネスモデル構築と学術出版をめぐる動向」での講演
平成 21 (2009) 年 1 月 20-27 日	ProjectEuclid 来日 (Terry Ehling 氏、David Ruddy 氏、Erich Staib 氏、Mira Waller 氏) 数学系ジャーナルとの打合せ

Project Euclid は、出版者のビジネスモデルとしてパッケージ販売の対象となる Euclid Prime、出版者が価格決定権も持ち個別販売となる Euclid Select、アクセス制限を設定しない Open Access などを用意している。パートナー誌が現在選択しているモデルは表 19 のとおり。

[Project Euclidについて] <http://projecteuclid.org/>

表 19 : Project Euclid への収録状況

出版者	ジャーナル名	モデル*1
東北大学大学院理学研究科数学専攻	Tohoku Mathematical Journal	SELECT
東京工業大学大学院理工学研究科数学専攻	Kodai Mathematical Journal	PRIME
名古屋大学大学院多元数理科学研究科	Nagoya Mathematical Journal	OA
日本学士院	Proceedings of the Japan Academy, Series A : Mathematical Sciences	OA
大阪大学大学院理学研究科数学専攻/ 大阪市立大学大学院理学研究科数学専攻	Osaka Journal of Mathematics	OA
京都大学数理解析研究所	Publications of Research Institute for Mathematical Sciences	OA
広島大学大学院理学研究科数学教室	Hiroshima Mathematical Journal	OA
日本数学会	Journal of Mathematical Society of Japan	SELECT

*1) PRIME : Euclid Prime、Select : Euclid Select、OA : Open Access

4 Advocacy活動の展開

4.1 SPARC Japanセミナー

平成 17 (2005) 年度より、学術情報流通に関する最新のトピックス紹介と電子ジャーナル刊行の技術的・制度的な情報・ノウハウの共有を通じて我が国の学会誌刊行担当者の人材養成支援を図ることを目的に、セミナーを開催した。平成 17 (2005) 年度より平成 20 (2008) 年度までの 4 年間で 32 回のセミナーを開催し、総参加者数 (延べ) は、1,770 名であった (表 20)。

平成 18 (2006) 年度は参加者を限定したクローズセミナーとして開催したが、平成 19 (2007) 年度はテーマに合わせて適宜、誰でも参加可能なオープン形式とクローズ形式を併用、平成 20 (2008) 年度はすべてオープンセミナーとした。これにより、出版社、印刷会社を中心とする企業からの参加が増加した (図 5～7)。

平成 19 (2007) 年度より、国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会のもとに SPARC Japan セミナー実行委員会を設置し、実行委員会によりセミナーを企画・立案し、実施した。

特に、平成 19 (2007) 年度には、世界最大規模の学術出版社協会である英国の学会・専門協会出版協会 (ALPSP : Association of Learned and Professional Society Publishing) とのジョイントセミナー (第 4 回 SPARC Japan 連続セミナー2007「学術出版と学会 Journal Publishing and Scholarly Societies」) を開催するとともに、パートナー誌限定のジャーナル出版トレーニングコースを開催した。

セミナーの記録公開については、講演者の許諾を得たものについて講演資料を事業サイトで公開し、平成 20 (2008) 年度第 2 回セミナーからは講演映像のストリーミング公開も実施している。

また、平成 20 (2008) 年度より、講演内容のドキュメント化試験にも着手している。

表 20 : SPARC Japan セミナー開催状況

年度	回数	来場者数 合計	来場者数 平均	備考
平成 17 (2005) 年度	10	577	58	
平成 18 (2006) 年度	7	231	33	すべてクローズセミナー
平成 19 (2007) 年度	6	345	58	うち 2 回はクローズセミナー
平成 20 (2008) 年度	9	617	69	
合計	32	1,770	55	

図 5：平成 18 年度参加状況

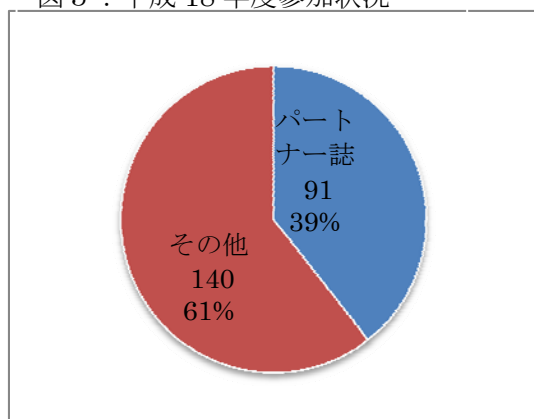


図 6：平成 19 年度参加状況

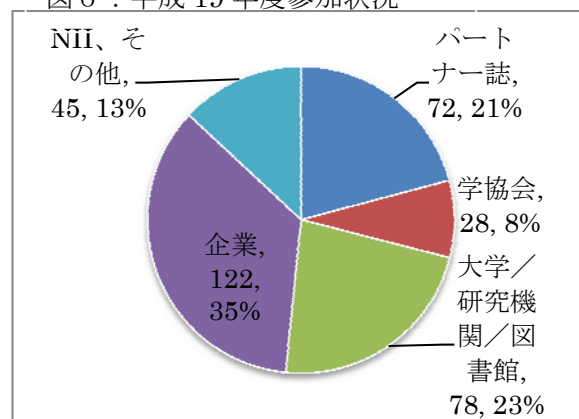
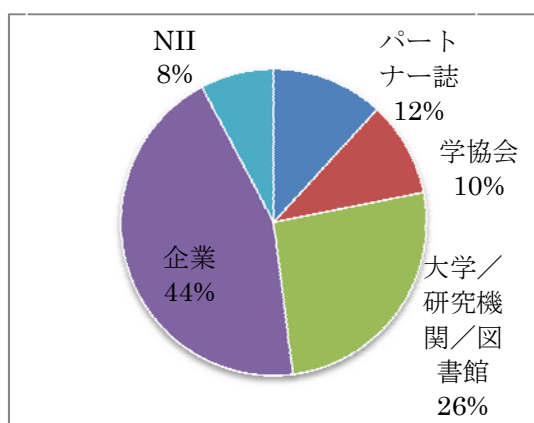


図 7：平成 20 年度参加状況



※平成 17 年度は、参加者所属データなし

4.2 その他

4.2.1 国際シンポジウムの開催

大学等における科学・学術研究を推進するインフラとしての機関リポジトリの可能性を追求することを目的として、国際シンポジウムを2日間にわたって開催した。

期間：平成18年12月18日（月）～19日（火）

会場：都市センターホテル（千代田区平河町2-4-1）

テーマ：

- (1)eScienceなどの形で展開しているデジタル環境における科学研究の振興方策
 - (2)それらの展開が、大学などの高等教育機関、研究機関のあり方に及ぼす影響
 - (3)科学・学術研究の成果普及に関して、従来の出版という方法を越えた新しい可能性
- シンポジウム参加者（受付け者数）：290名

4.2.2 広報誌「SPARC Japanニュースレター」発行

事業の成果を一般に広報する媒体として、「SPARC Japan ニュースレター」を平成21（2009）年2月に創刊した。創刊号は4,000部を印刷し、パートナー誌、大学図書館等へ配布するとともに、PDF版、HTML版を事業サイトで公開した。

図8：SPARC Japan ニュースレター（1号）



5 調査活動・評価活動

5.1 学術英文誌の利用と投稿に関しての調査

平成 16（2004）年度、我が国の学術情報の海外への発信及び国際学術情報流通基盤整備事業を進めていく上での基礎資料を得ることを目的に実施した。

- ① 調査の対象
 - ・動物学会、癌学会、物理学会の 3 学会の学会員
- ② 抽出方法
 - ・各学会員名簿にもとづく単純無作為抽出
- ③ 調査方法
 - ・郵送調査法
- ④ 調査時期
 - ・動物学会…平成 16 年 8 月
 - ・癌学会……平成 16 年 9 月
 - ・物理学会…平成 16 年 12 月

5.2 電子論文投稿システム 比較調査

平成 16（2004）年度、代表的な“電子論文投稿・査読システム”を調査し、各システムの特徴を抽出し、比較することを目的に実施した。

1. 調査の対象

No.	ベンダー名称	URL	国内外・公民
1	ScholarOne	http://www.scholarone.com/	国外・民間
2	科学技術振興機構（JST）	http://info.jstage.jst.go.jp/	国内・公的機関
3	国際文献印刷社	http://www.bunken.co.jp/	国内・民間
4	EJPress	http://www.ejournalpress.com	国外・民間
5	Allen Press	http://www.allenpress.com	国外・民間
6	HighWire Press	http://www.highwire.stanford.edu	国外・学内組織
7	The Berkeley Electronic Press	http://www.bepress.com	国外・民間
8	ESPERE	http://www.espere.org	国外・官学共同
9	Cadmus Professional Communications	http://cpc.cadmus.com	国外・民間

5.3 研究活動及びオープンアクセスに関する調査

平成 17（2005）年度、国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会及び国立情報学研究所で、我が国の研究者の研究活動の状況、オープンアクセス（OA）に関わる概念の認知度、および研究成果の発表と OA との関連性や影響度について、研究者の動向や意見を把握し、今後の学術コミュニケーション向上に資するための基礎資料を得ることを目的に、調査を実施した。

- ① 調査の対象
 - 国立大学法人及び大学共同利用機関法人に所属する研究者（教員）
- ② サンプル数

2,000 人

③ 抽出方法

「2004 年全国大学職員録 国立大学編」から、単純無作為抽出

④ 回収状況

有効回収数：613 票（有効回収率：30.7%）

⑤ 調査時期

平成 17 年 12 月

⑥ 調査方法

郵送調査法

本報告書は、事業サイトで公開中。

5.4 研究成果情報発信強化に関する総合的調査

平成 17（2005）～18（2006）年度、文部科学省の委託を受け、日本発の学術英文総合誌の実現可能性及び発刊に際しての方向性等を探るための調査を実施した。

5.5 大学図書館から見た国際学術情報流通基盤整備事業パートナー学会及びパートナー誌評価

平成 18（2006）～19（2007）年度、第 2 期の基本方針 1）「ビジネスモデルの構築」に基づき、大学図書館におけるサイトライセンス契約を推進するため、顧客である大学図書館の観点から、パートナー学会及びパートナー誌の活動について評価した。

平成 18 年度第 2 回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会（平成 19（2007）年 1 月 30 日）において、同委員会のもとに評価ワーキンググループ（大学図書館関係委員により構成）を設置することが承認され、この評価ワーキンググループが、評価関連事項の調査票を作成し、国立情報学研究所を通じてパートナー学会に配布・回収（平成 19（2007）年 2 月 8 日～22 日）し、各学会からの回答の分析及び付随調査を行い、評価を行った。

本報告書は、事業サイトで公開中。

5.6 物理系パートナー誌海外動向調査

平成 17（2005）年度より、物理系学術誌刊行センター（旧：物理系学術誌刊行協会）により継続的に以下の大会、会議に参加し、海外動向の調査を行った。

- ・ Online Information
- ・ STM
- ・ CrossRef

本報告書は、事業サイトで公開中。

6 委員会等

6.1 国際学術情報流通基盤整備事業評議会・運営委員会

[第1期]

開催日	議題	特記事項
平成 15（2003）年度 第 1 回評議会 （平成 15 年 6 月 25 日）	1. 国際学術情報流通基盤整備事業の全体計画について 2. 事業参画学協会の公募について 3. 今後の進め方について	
平成 15（2003）年度 第 1 回運営委員会 （平成 15 年 8 月 1 日）	1. 第 1 回国際学術情報流通基盤整備事業評議会について 2. 国際学術情報流通基盤整備事業参画提案の選考要項について 3. 国際学術情報流通基盤整備事業参画提案の評価基準について 4. コンサルタントの基本方針について	
平成 15（2003）年度 第 2 回運営委員会 （平成 15 年 9 月 11 日）	1. 国際学術情報流通基盤整備事業参画提案の選考について	
平成 15（2003）年度 第 2 回評議会 （平成 15 年 9 月 17 日）	1. SPARC/JAPAN 参画提案の選定について	参画提案選定 （21 誌）
平成 15（2003）年度 第 3 回運営委員会 （平成 16 年 3 月 22 日）	1. 平成 15 年度事業報告について 2. 平成 16 年度事業方針について	新雑誌構想について
平成 15（2003）年度 第 3 回評議会 （平成 16 年 3 月 23 日）	1. 平成 15 年度事業報告について 2. 平成 16 年度事業方針について	(1) 選定誌支援、(2)アーカイブ、(3)新雑誌を年度中心課題とする
平成 16（2004）年度 第 1 回運営委員会 （平成 16 年 5 月 28 日）	1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業の事業計画について 2. 事業参画学協会の募集について	新雑誌については本事業と切り離す
平成 16（2004）年度 第 1 回評議会 （平成 16 年 6 月 2 日）	1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業の事業計画について 2. 事業参画学協会の募集について	新雑誌は別プロジェクトとする
平成 16（2004）年度 第 2 回運営委員会 （平成 16 年 9 月 15 日）	1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業参画提案の選考について （報告）1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業説明会の開催について （報告）2. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業進捗状況報告	
平成 16（2004）年度 第 2 回評議会 （平成 16 年 9 月 22 日）	1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業参画提案の選考について （報告）1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業説明会の開催について （報告）2. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業進捗状況報告	参画提案選定 （9 誌）
平成 16（2004）年度 第 3 回運営委員会 （平成 17 年 3 月 7 日）	1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業報告について 2. 平成 17 年度国際学術情報流通基盤整備事業方針について	
平成 16（2004）年度 第 3 回評議会 （平成 17 年 3 月 10 日）	1. 平成 16 年度国際学術情報流通基盤整備事業報告について 2. 平成 17 年度国際学術情報流通基盤整備事業方針について	
平成 17（2005）年度 第 1 回運営委員会 （平成 17 年 6 月 6 日）	1. 平成 17 年度国際学術情報流通基盤整備事業の事業計画について	公募休止

平成 17 (2005) 年度 第 1 回評議会 (平成 17 年 6 月 8 日)	1. 平成 17 年度国際学術情報流通基盤整備事業の事業計画について	
平成 17 (2005) 年度 第 2 回運営委員会 (平成 17 年 10 月 13 日)	1. 参画選定誌の拡充について (報告) 1. 国際学術情報流通基盤整備事業の中間報告 (報告) 2. SPARC との MOU 締結について (報告) 3. J-STAGE 電子アーカイブ事業について (報告) 4. 研究者意識調査の実施について	
平成 17 (2005) 年度 第 2 回評議会 (平成 17 年 10 月 26 日)	1. 平成 17 年度参画選定誌の拡充について (報告) 1. 国際学術情報流通基盤整備事業の中間報告 (報告) 2. SPARC との MOU 締結について (報告) 3. 研究者意識調査の実施について (参考) J-STAGE 電子アーカイブ事業について	5 誌選定
平成 17 (2005) 年度 第 3 回運営委員会 (平成 18 年 2 月 15 日)	1. 国際学術情報流通基盤整備事業の報告について 2. 平成 18 年度以降の国際学術情報流通基盤整備事業方針案について (報告) 1. 研究者のオープンアクセス意識調査報告 (報告) 2. SPARC との MOU 締結について	
平成 17 (2005) 年度 第 3 回評議会 (平成 18 年 2 月 24 日)	1. 国際学術情報流通基盤整備事業の報告について 2. 平成 18 年度以降の国際学術情報流通基盤整備事業方針案について (報告) 1. 研究者のオープンアクセス意識調査報告 (報告) 2. SPARC との MOU 締結について	評議会の終了

〔第 2 期〕

開催日	議題	特記事項
平成 18 (2006) 年度 第 1 回運営委員会 (平成 18 年 9 月 8 日)	1. 平成 18 年度以降の推進体制について 2. 国際学術情報流通基盤整備事業第 2 期基本方針について 3. 平成 18 年度国際学術情報流通基盤整備事業実施計画について (報告) 1. デジタル・リポジトリに関する国際シンポジウムの開催 (報告) 2. ALPSP との協議および Sally Morris 氏による講演会 (報告) 3. 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業について	
平成 18 (2006) 年度 第 2 回運営委員会 (平成 19 年 1 月 30 日)	1. 今年度の事業活動について 2. 来年度のパートナー誌支援について 3. 来年度の連続セミナーについて (報告) 1. ALPSP・Sally Morris 氏との懇談について (平成 18 年 11 月 29 日) (報告) 2. WPRIM プロジェクトへの協力	
平成 19 (2007) 年度 第 1 回運営委員会 (平成 19 年 7 月 19 日)	1. 平成 19 年度運営委員会の構成について 2. 平成 19 年度事業計画について 3. 大学図書館から見た事業評価報告書について 4. SPARC Japan 連続セミナーについて (報告) 1. SPARC Japan パートナー誌合同会議の開催について (報告) 2. UniBioPress セミナー:「生物系ジャーナルの挑戦—より明確に、より広く、その情報を伝えるために」の共催について (報告) 3. 化学系ジャーナル合同プロモーションについて	セミナー実行委員会設置
平成 19 (2007) 年度 第 2 回運営委員会 (平成 20 年 2 月 29 日)	1. 平成 19 年度実施報告 2. 平成 20 年度国際学術情報流通基盤整備事業実施計画について 3-1. 平成 20 年度パートナー誌支援について	ワーキンググループ設置

	3－2．新規事業提案について (1)大学図書館と学会間の学術出版に関するコミュニケーション強化についての提案 (2)SPARC Japan 新規プロジェクト企画 3－3．SPARC Japan 連続セミナーについて （報告）1．平成 19 年度国際学術情報流通基盤整備事業実施報告	
平成 20（2008）年度 第 1 回運営委員会 （平成 20 年 12 月 24 日）	1．第 3 期の進め方 （報告）1．平成 20 年度事業実施状況について (1)SPARC Japan ワーキンググループについて (2)SPARC Japan セミナー実行委員会について	
平成 20（2008）年度 第 2 回運営委員会 （平成 21 年 3 月 10 日）	1．第 3 期の進め方について 2．DRFIC2009 共催について 3．パートナー誌合同会議の開催について （報告）1．平成 20 年度事業実施状況について (1)SPARC Japan パートナー誌事業報告 (2)平成 20 年度新規プロジェクト「数学系ポータル」報告 (3)Project Euclid との打ち合わせ状況	
平成 20（2008）年度 第 3 回運営委員会 （平成 21 年 3 月 27 日）	1．第 3 期の進め方について	

6.2 ワーキンググループ等

6.2.1 総合誌調査委員会

開催日	議題	特記事項
平成 18（2006）年度 第 1 回 （平成 18 年 9 月 8 日）	1. 平成 17 年度研究成果情報発信強化に関する総合的調査報告について 2. 平成 18 年度研究成果情報発信強化に関する総合的調査の進め方について	

6.2.2 大学図書館から見た事業評価ワーキンググループ

開催日	議題	特記事項
平成 18（2006）年度 第 1 回 （平成 19 年 3 月 1 日）	1. スケジュール 2. 報告書で取り上げていただきたい事項	
平成 18（2006）年度 第 2 回 （平成 19 年 3 月 20 日）	1. 大学図書館から見た事業評価について	

6.2.3 SPARC Japan セミナー実行委員会

開催日	議題	特記事項
平成 19（2007）年度 第 1 回 （平成 19 年 7 月 31 日）	1. SPARC Japan 連続セミナー実行委員会の設置について 2. SPARC Japan 連続セミナー2007 第 1 回実施報告 3. 平成 19 年度実施計画について (1)平成 19 年度開催日程、コーディネータの決定 (2)ALPSP ジョイントセミナー (3)第 9 回図書館総合展フォーラム	
平成 19（2007）年度 第 2 回 （平成 20 年 2 月 5 日）	1. 平成 19 年度 SPARC Japan 連続セミナー実施状況 2. 本年度内開催予定について 3. 平成 20 年度実施計画について (1)平成 20 年度委員会体制について (2)平成 20 年度のセミナーテーマ案	
平成 20（2008）年度 第 1 回 （平成 20 年 5 月 20 日）	1. 平成 20 年度 SPARC Japan セミナー実行委員 2. SPARC Japan セミナー2008 第 1 回実施報告 3. 平成 20 年度実施計画について (1)平成 20 年度開催計画決定 (2)コーディネータ決定 4. 「SPARC Japan セミナーの歩み（仮題）」出版について	

6.2.4 SPARC Japan ワーキンググループ

開催日	議題	特記事項
平成 20（2008）年度 第 1 回 （平成 20 年 5 月 7 日）	1. ワーキンググループについて 2. 平成 20 年度の調査・プロモーション活動について	
平成 20（2008）年度 第 2 回 （平成 20 年 8 月 7 日）	1. 活動状況報告 ① SLA（the Special Libraries Association）Annual Conference への出展 ②国立大学図書館協会総会への出展 ③中国化学会年会への出展 2. 今後の活動について ①業務計画書について 3. 大学図書館と学会とのコラボレーションについて	
平成 20（2008）年度 第 3 回 （平成 20 年 10 月 10 日）	1. 活動状況報告 ①化学系合同プロモーション報告 ②私立大学図書館協会総会出展報告	

	③KESLI 報告 2. 今後の活動について ①Charleston Conference について ②The SPARC Digital Repositories Meeting 2008 について 3. SPARC Japan ニュースレターの発行について 4. 大学図書館と学会とのコラボレーションについて	
平成 20 (2008) 年度 第 4 回 (平成 20 年 12 月 15 日)	1. 活動状況報告 ①海外調査、出展報告 ②SPARC デジタルリポジトリミーティング 2008 2. 今後の活動について ①業務計画の変更について 3. 第 3 期の活動について	

6.3 委員名簿

6.3.1 国際学術情報流通基盤整備事業評議会

氏 名	所 属 ・ 役 職	15 年 度	16 年 度	17 年 度
石井 紫郎	東京大学名誉教授・日本学術振興会学術システム研究センター副所長	←→	←→	←→
大崎 仁	国立学校財務センター所長（平成 15 年）／大学共同利用機関法人 人間文化研究機構理事（平成 16・17 年）	←→	←→	←→
沖村 憲樹	科学技術振興事業団理事長	←→	←→	←→
紙屋 敦之	私立大学図書館協会会長・早稲田大学図書館長	←→	←→	
小宮山 宏	国立大学図書館協議会会長・東京大学附属図書館長	←→	←→	
末松 安晴	国立情報学研究所長（平成 15・16 年）／国立情報学研究所顧問（平成 17 年）	←→	←→	←→
豊島 久真男	理化学研究所遺伝子多型研究センター長（平成 15 年）／理化学研究所研究顧問（平成 16・17 年）	←→	←→	←→
野依 良治	名古屋大学物質科学国際研究センター長（平成 15 年）／理化学研究所理事長（平成 16・17 年）	←→	←→	←→
丸山 工作	大学入試センター所長	←→		
光岡 知足	日本学会事務センター理事長	←→		
西郷 和彦	国立大学図書館協会会長・東京大学附属図書館長			←→
坂内 正夫	国立情報学研究所長			←→
松井 賢一	私立大学図書館協会会長・龍谷大学学術情報センター長			←→

6.3.2 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

氏 名	所 属 ・ 役 職	15 年 度	16 年 度	17 年 度	18 年 度	19 年 度	20 年 度
佐原 卓	科学技術振興事業団理事	←→					
金子 弘正	科学技術振興事業団審議役	←→					
和田 光俊	科学技術振興事業団情報事業本部知的資産 集積部電子ジャーナル部門主任情報員（15・ 16年）／文献情報部電子ジャーナル課長（17 年）	←→					
今野 省造	日本学会事務センター理事	←→					
土屋 俊	国立大学図書館協議会会長補佐 千葉大学教授（15・16年）／千葉大学文学部 教授（17・19・20年）／千葉大学附属図書館 長（18年）	←→					→
坂上 光明	東北大学附属図書館事務部長	←→					
京藤 貫	千葉大学附属図書館情報管理課長	←→					
中元 誠	早稲田大学図書館総務課長	←→					
北村 昌良	物理系学術誌刊行協会事務局長	←→					
山口 哲男	日本癌学会 Managing Editor（15年）／ 日本学会事務センター理事（16年）	←→					
永井 裕子	（社）日本動物学会事務局長	←→					→
坂内 正夫	国立情報学研究所副所長（15・16年）／所長 （17年）	←→					
根岸 正光	国立情報学研究所国際・研究協力部長（15 ～17年）／情報社会関連研究系教授（18～ 20年）	←→					→
羽鳥 光俊	国立情報学研究所開発・事業部長	←→					
安達 淳	国立情報学研究所国際学術情報流通基盤整 備事業推進室長（15～17年）／開発・事業 部長（17・18年）／学術基盤推進部長（19・ 20年）	←→					→
五神 真	国立情報学研究所客員教授	←→					

氏 名	所 属 ・ 役 職	15 年 度	16 年 度	17 年 度	18 年 度	19 年 度	20 年 度
山下 洋一	名古屋大学附属図書館事務部長		↔				
尾城 孝一	千葉大学附属図書館情報サービス課長		↔				
東倉 洋一	国立情報学研究所開発・事業部長（16年） ／副所長（17年）		↔				
細江 孝雄	科学技術振興機構理事			↔			
木村 優	東京外国語大学情報図書館課長			↔			
寺本 憲夫	龍谷大学学術情報センター事務部長			↔			
今井 浩	東京大学大学院情報理工学系研究科教授			↔			
逸村 裕	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 教授				↔		
村井しのぶ	一橋大学附属図書館学術情報課				↔		
森 重文	京都大学数理解析研究所教授				↔		
藤田 儒聖	島根県立大学メディアセンター				↔		
林 和弘	日本化学会学術情報部課長				↔		
小西 和信	国立情報学研究所開発・事業部次長				↔		
柴尾 晋	明治大学図書館整理課					↔	
早瀬 均	国立情報学研究所学術基盤推進部次長					↔	
大場 高志	一橋大学学術・図書部長						↔
鈴木 英則	物理系学術誌刊行センター事務局長						↔

6.3.3 総合誌調査委員会

氏 名	所 属 ・ 役 職	17 年 度	18 年 度
土屋 俊	千葉大学附属図書館長・文学部教授	←→	←→
倉田 敬子	慶應義塾大学文学部教授	←→	
逸村 裕	名古屋大学附属図書館研究開発室助教授	←→	←→
太田 暉人	日本化学会常務理事	←→	←→
永井 裕子	日本動物学会事務局長		←→
坂内 正夫	国立情報学研究所長	←→	
根岸 正光	国立情報学研究所国際・研究協力部長	←→	←→
安達 淳	国立情報学研究所開発・事業部長	←→	←→
小西 和信	国立情報学研究所開発・事業部次長	←→	←→

6.3.4 大学図書館から見た事業評価ワーキンググループ

氏 名	所 属 ・ 役 職	18 年 度
土屋 俊	千葉大学附属図書館長	←→
木村 優	東京外国語大学情報図書館課長	←→
村井 しのぶ	一橋大学附属図書館学術情報課レファレンス主担当	←→
中元 誠	早稲田大学図書館総務課長	←→
藤田 儒聖	島根県立大学メディアセンター	←→

6.3.5 SPARC Japan連続セミナー実行委員

氏 名	所 属 ・ 役 職	19 年 度	20 年 度
武田 敏子	物理系学術誌刊行協会営業・マーケティング	↔	
谷藤 幹子	物質・材料研究機構科学情報室長	↔	↔
永井 裕子	日本動物学会事務局長	↔	↔
林 和弘	日本化学会学術情報部課長	↔	↔
日岡 康恵	日本農芸化学会編集係長	↔	↔
水橋 慶	電子情報通信学会出版事業部ソサイエティ誌出版課	↔	↔
山下 和子	化学工学会編集課	↔	↔
斉藤 洋子	国際医学情報センター開発・管理本部学会事務室第四係学会誌編集担当		↔
下越 弘子	日本数学会 Journal 編集部		↔
鈴木 英則	物理系学術誌刊行センター事務局長		↔

6.3.6 SPARC Japanワーキンググループメンバー

氏 名	所 属 ・ 役 職	20 年 度
林 和弘	日本化学会学術情報部課長	↔
水橋 慶	電子情報通信学会出版事業部ソサイエティ誌出版課	↔
大場 高志	一橋大学学術・図書部長	↔
柴尾 晋	明治大学図書館整理課	↔
根岸 正光	国立情報学研究所情報社会相関研究系教授	↔
安達 淳	国立情報学研究所学術基盤推進部長	↔

7 年表

年度		主催イベント	その他のイベント
平成 15 (2003)	06/25	第 1 回評議会	
	07/14	事業参画提案の募集開始	
	08/01	第 1 回運営委員会	
	09/11	第 2 回運営委員会	
	09/17	第 2 回評議会（事業参画提案決定）	
	09/17	記者発表	
	10/08	作業グループ合同会議	
			11/05 第 5 回図書館総合展フォーラム「SPARC/JAPAN：日本の国際学術コミュニケーションの変革」開催（於：東京国際フォーラム 国立大学図書館協議会・私立大学図書館協会主催）
			11/20 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース（生物系、物理系、医学系の購読交渉）
		01/21-29 Project Euclid 説明会（於：学術総合センター、東北大学、京都大学、名古屋大学）	
平成 16 (2004)		02/23 SPARC/JAPAN 懇談会：参加学会への成果報告、新雑誌創刊構想説明（於：学術総合センター）	
	03/22	第 3 回運営委員会	
	03/23	第 3 回評議会	
		03/11 SPARC/JAPAN セミナー：生物系学協会誌をめぐる学術情報流通体制の将来 -UniBio Press のめざすもの-（於：東京大学附属図書館）	
	05/28	第 1 回運営委員会	
	06/02	第 1 回評議会	
	06/07	参画提案募集開始	
		07/07 学協会向け事業説明会（於：学術総合センター）	07/01 国立大学図書館協会総会ワークショップ：「国際学術情報流通基盤整備事業の活動」（於：大阪大学コンベンションセンター）
	09/15	第 2 回運営委員会	
	09/22	第 2 回評議会（事業参画提案選定）	
		09/27 Project Euclid 懇談会（Project Euclid への参画に関する技術的打ち合わせ、DPubS についての説明）	

10/14 作業グループ合同会議	10/15 シンポジウム：学会出版と学術コミュニケーション活動の変革 ～SPARC/JAPAN を事例として～（於：広島大学中央図書館 広島大学図書館、国立情報学研究所、国立大学図書館協会国際 学術コミュニケーション委員会共催）	
8		
9		
10		
11		
12	10/19 緊急シンポジウム「どうする日本の学術誌！」（於：早稲田 大学総合学術情報センター（社）高分子学会、（社）電子情 報通信学会、東北数学雑誌編集委員会、（社）日本機械学会、 （社）日本金属学会、（社）日本動物学会、（社）日本分析化学 会、日本哺乳動物卵子学会、日本哺乳類学会、国立情報学研究 所共催）	10/19-20 Project Euclid DPubS Conference に参加（於：コーネル大 学）
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19	11/05 OUP 懇談会「Open Access の現状について」	
20		
21	11/25 第6回図書館総合展フォーラム「学術コミュニケーションの最 先端：オープンアクセスとセルフアーカイブ」（於：パシフィ コ横浜）	
22		
23		
24		
25	01/27 ワークショップ「電子ジャーナルのビジネスモデル構築と学術 出版をめぐる動向」（於：日本教育会館）	
26		
27		
28		
03/07 第3回運営委員会	03/24 シンポジウム「SPARC の現状と課題：学術雑誌・機関レポジ トリ・オープンアクセス」（於：早稲田大学）	
03/10 第3回評議会		
平成 17 (2005)	05/19 SPARC/JAPAN 連続セミナー第1回「Nature の歴史、今、未 来を語る－Nature の編集方針」	
06/06 第1回運営委員会		
06/08 第1回評議会	06/29 SPARC/JAPAN 連続セミナー第2回「電子投稿査読システム とは何かー今、日本で使えるシステム」JST「J-STAGE 投稿 審査システム」	06/21-22 JISC International Solutions for the Dissemination of Research に出席、討議（ロンドン）
	07/09-10 電子ジャーナル利用の現在と未来に関するクローズド・ワー クショップ（於：経団連ゲストハウス、静岡）	07/07-08 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2005「ユー ザーを理解する（Understanding Users）」（於：京都・東京、 エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援）
	07/15 SPARC/JAPAN 連続セミナー第3回「オープンアクセスの理 念と実践ー研究者・図書館・学術誌」	
	07/20 UniBio Press の挑戦ー学会の新しいビジネスモデル（於：	

			茨城大学 茨城大学図書館主催)			
			09/15	山口大学図書館セミナー2005「日本の電子ジャーナルの現況」学術コミュニケーションの今日：SPARC/JAPAN の挑戦（於：山口大学学術情報機構図書館主催）		
			09/22	SPARC/JAPAN 連続セミナー第 4 回「電子ジャーナルをどう作成し、どう公開するかー学協会、企業の試み」	09/16	京都大学学術情報・電子ジャーナルシンポジウム「[大学における学術情報資源の整備ー電子ジャーナル時代の学術コミュニケーションの変革ー」（於：京都大学 京都大学附属図書館と NII の共催）
10/13	第 2 回運営委員会	10/06	SPARC/JAPAN 連続セミナー第 5 回「主体である研究者は何をすべきかー電子ジャーナル時代を迎えて」（於：つくば国際会議場社団法人日本動物学会第 76 回大会関連シンポジウムとの共催）			
10/26	第 2 回評議会（事業参画提案選定）	11/24	SPARC/JAPAN 連続セミナー臨時回「Journal of Bioscience and Bioengineering WEB 投稿審査システム」説明会・デモンストレーション			
			11/30	SPARC/JAPAN 連続セミナー第 6 回「第 7 回図書館総合展フォーラム COUNTER プロジェクト：オンライン利用統計の国際標準について」（於：パシフィコ横浜）		
			12/01	COUNTER プロジェクトに関するクローズド・ワークショップ		
			12/12	SPARC/JAPAN 連続セミナー第 7 回「日本の学術誌における英文校閲を考える」	12/09	長崎大学附属図書館連続講演会第二回講演会「学術情報発信の新しい動向」：SPARC/JAPAN の活動と課題（於：長崎大学附属図書館主催）
			01/31	SPARC/JAPAN 連続セミナー第 8 回「学術情報流通をめぐる最近の動向と技術標準：Google Scholar、CrossRef、OAI-PMH、etc.」		
02/15	第 3 回運営委員会	02/10	SPARC/JAPAN 連続セミナー第 9 回「SPARC/JAPAN 選定誌によるラップアップセッション」			
02/24	第 3 回評議会					
平成 18 (2006)	03	米国研究図書館協会（ARL）と MOU を締結	06/30	SPARC Japan 連続セミナー2006 第 1 回「海外商業出版社から見た日本の学術コミュニティ」	07/03-04	エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2006「From ・ライブラリ・コネクト・セミナーーマンへ 必要な情報を見つけやすい環境づくり ～」（於：東京・大阪、エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援）
			07/26	SPARC Japan 連続セミナー2006 第 2 回「e-Journal の販促とライセンス：海外の状況と海外市場における日本ジャーナ		

		ルの展望」	
09/08 第1回運営委員会	09/05	Sally Morris 氏講演会「Introducing ALPSP」	
	09/29	SPARC Japan 連続セミナー2006 第3回「Web 投稿審査システムの検証：ビフォーアフター」	
	11/02	SPARC Japan 連続セミナー2006 第4回「大学図書館から学術出版社への要望：COUNTER を例にして」	
	11/20	第8回図書館総合展フォーラム「TRANSFER－出版社間のジャーナル移行に伴う問題点とその解決に向けて」（於：パシフィコ横浜）	
	12/14	SPARC Japan 連続セミナー2006 第5回「著作権：学会の権利、著者の権利、機関リポジトリへの対応」	
01/30 第2回運営委員会	12/18-19	「デジタル巨人の肩の上に立つ」機関リポジトリ、e-サイエンス、および学術コミュニケーションの将来に関する国際シンポジウム（於：都市センターホール）	
	01/30	SPARC Japan 連続セミナー2006 第6回「e-Journal の販売とライセンス(2)・販売のプロに学ぶ成功の秘訣」	
	03/05	SPARC Japan 連続セミナー2006 第7回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る」	
平成 19 (2007)			05/15 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナル の挑戦－より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：学術総合センター UniBioPress 主催）
			05/17 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナル の挑戦－より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：京都大学附属図書館 UniBioPress 主催）
06/12 パートナー誌合同会議			
07/19 第1回運営委員会	07/17	SPARC Japan 連続セミナー2007 第1回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る-2-」	
			08/05-11 41th IUPAC (International Union of Pure and Applied Chemistry) 化学会議出展（トリノ）
			08/20-22 234th ACS 秋季大会出展（ボストン）

	10/02	SPARC Japan 連続セミナー2007 第2回「Web 投稿審査システムの検証パート3 稿より良いシステムを目指して」	
	11/02	SPARC Japan 連続セミナー2007 第3回「メタデータ Publishing の現在—電子ジャーナル主体の製作・出版に必要なもの」	11/07-09 第9回図書館総合展出展（於：パシフィコ横浜）
12/14		パートナー誌と大学図書館の合同会議「SPARC Japan パートナー誌のコンソーシア購入に向けて」	11/09 第9回図書館総合展プレゼンテーション「日本の英文トップ電子ジャーナルの挑戦—図書館総合展プレゼンターパートナー誌からの提案—」（於：パシフィコ横浜）
	01/17	SPARC Japan-ALPSP 特別セミナー（第4回 SPARC Japan 連続セミナー2007）「学術出版と学会 Journal Publishing and Scholarly Societies」	
02/29	第2回運営委員会	01/18 ALPSP トレーニングコース「Introduction to Journal Publishing」	
平成 20 (2008)	04/22	SPARC Japan セミナー2008 第1回「研究成果発表の手段としての学術誌の将来」	06/15-17 SLA (Special Libraries Association 米国専門図書館協会) 年次総会出展（シアトル）
	06/24	SPARC Japan セミナー2008 第2回「学術出版と XML 対応-日本の課題」	06/26 第55回国立大学図書館協会総会出展（於：東北大学）
	07/10	SPARC Japan セミナー2008 第3回「韓国コンソーシアム事情 - 海外展開を目指して -」	07/13-15 中国化学会学術年会出展（於：天津）
	09/02-03	RIMS 研究集会（第4回 SPARC Japan セミナー2008）「紀要の電子化と周辺の話題」（於：京都大学数理解析研究所 京都大学数理解析研究所主催）	08/17-19 236th ACS National Meeting & Exposition 出展（於：フィラデルフィア）
			09/11-12 私立大学図書館協会総会出展（於：國學院大學）
			09/16-20 2nd EuCheMS Chemistry Congress 出展（於：トリノ）
			09/25-26 KESLI (Korean Electronic Site License Initiative) 電子情報 EXPO での発表、出展（於：大田）
	10/14	SPARC Japan セミナー2008 (Open Access Day 特別セミナー)「日本における最適なオープンアクセスとは何か？」	10/12-15 15th North American ISSX (International Society for the Study of Xenobiotics) Meeting での広報（於：サンディエゴ）

		10/27-30 ISAP2008 (International Symposium on Antennas and Propagation) 出展 (於：台湾)
	11/17-18 SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (於：ボルチモア SPARC、SPARC Europe、SPARC Japan 共同主催)	11/13-14 INFOPRO2008 プロダクトレビュー参加・出展 (於：日本科学未来館)
	11/25 SPARC Japan セミナー2008 第6回「IFを越えて-さらなる研究評価の在り方を考える」	
	11/27 SPARC Japan セミナー2008 第7回(第10回図書館総合展・学術情報オープンサミット 2008 フォーラム)「Open Access Update」	
12/24 第1回運営委員会	12/16 SPARC Japan セミナー2008 第8回「日本で使える電子ジャーナルプラットフォーム」	12/17-20 EUC2008 (International Conference On Embedded and Ubiquitous Computing) 出展 (於：上海)
	01/22-26 Project Euclid と数学系ジャーナルの打ち合せ (於：国立情報学研究所、京都大学、東京工業大学)	
03/10 第2回運営委員会	02/13 SPARC Japan セミナー2008 第9回「SPARC Japan 選定誌がやってきたこと」	
03/27 パートナー誌合同会議		03/16-20 APS March Meeting 2009 (米国物理学会年会) 出展 (於：ピッツバーグ)
03/27 第3回運営委員会		

8 SPARC Japanセミナー記録

平成17年度 SPARC Japan セミナー実施記録

回	実施日	テーマ	講師 (所属)	形態	参加人数
1	平成17年5月19日(木) 16:00~18:00	Nature の歴史、今、未来を語る -Nature の編集方針	○中村康一 (ネイチャー・ジャパン株式会社)	オープン	29
2	平成17年6月29日(水) 14:00~17:30 (NII 20 階講義室)	電子投稿査読システムとは何か -今、日本で使えるシステム	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○和田光俊 (科学技術振興機構) ○磯野紳一 (日本機械学会) ○(株)三美印刷・サンビプロダクトセンター ○(株)ダイナコム ○田谷正仁 (日本生物工学会) ○(株)杏林舎 ○Joel Plotkin (ejournalPress)	オープン	55
3	平成17年7月15日(金) 14:00~17:30 (NII 12 階会議室)	オープンアクセスの理念と実践 -研究者・図書館・学術誌	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○土屋俊 (千葉大学附属図書館) ○杉田茂樹 (北海道大学附属図書館) ○宇川彰 (筑波大学計算科学研究センター)	オープン	69
4	平成17年9月22日(木) 14:00~17:30 (NII 20 階講義室)	電子ジャーナルをどう作成し、どう公開するか -学協会、企業の試み	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○林和弘 (日本化学会) ○松下茂 (株式会社サンメディア) ○三木律子 (エルゼビア・ジャパン株式会社)	オープン	53
5	平成17年10月6日(木) 15:45~18:00 (つくば国際会議場 3F C 会場ホール 300)	主体である研究者は何をすべきか? 電子ジャーナル時代を迎えて	○永井裕子 (日本動物学会) 【司会】 ○佐藤矩行 (日本動物学会) 【挨拶】 ○安達淳 (国立情報学研究所) ○柄内新 (北海道大学) ○山崎茂明 (愛知淑徳大学) ○尾城孝一 (国立情報学研究所)	オープン	100
臨時	平成17年11月24日(木) 14:00~17:30 (NII 20 階講義室)	「Journal of Bioscience and Bioengineering WEB 投稿審査システム」説明会・デモンストレーション	(社)日本生物工学会 ○田谷正仁 (大阪大学大学院) ○大政健史 (大阪大学大学院) ○菊井寿子 (事務局英文誌編集) ○山本敬二 (大阪大学生協同組合)	オープン	19
6	平成17年11月30日(水) 15:30~17:00 (パシフィコ横浜 フォーラム第2会場 アネックスホール F202)	COUNTER プロジェクト: オンライン利用統計の国際標準について (図書館総合展フォーラム)	○永井裕子 (日本動物学会) 【司会】 ○Richard Gedye (Oxford University Press)	オープン	120
7	平成17年12月12日(月) 14:00~17:30 (NII 20 階講義室)	日本の学術誌における英文校閲を考える	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○Matthew H. Dick (北海道大学大学院) ○Abhishek Goel (Cactus Communications Pvt. Ltd.) ○田中晶子 (オックスフォード大学出版局) ○山口まり子 (オックスフォード大学出版局)	オープン	28
8	平成18年1月31日(火) 14:00~17:30 (NII 20 階講義室)	学術情報流通をめぐる最近の動向と技術標準: Google Scholar, CrossRef, OAI-PMH, etc.	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○Howard Gobioff (グーグル株式会社) ○Mark Robertson (Blackwell Publishing Asia) ○桑原真人 (物理系学術誌刊行協会) ○尾城孝一 (国立情報学研究所)	オープン	64

9	平成 18 年 2 月 10 日 (金) 13:30~17:30 (NII 20 階講義室)	SPARC/JAPAN 選定誌によるラップアップセッション	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○日岡康恵 (日本農芸化学会) ○大政健史 (日本生物工学会) ○磯野紳一 (日本機械学会) ○植之原裕行 (電子情報通信学会) ○西川青季 (東北数学雑誌) ○中川治夫 (京都大学数理解析研究所) ○遠藤秀紀 (日本哺乳類学会) ○今井 浩 (電子情報通信学会) ○千葉博紀 (日本金属学会) ○北村昌良 (物理系学術誌刊行協会)	オープン	40
合計					577
平均					58

平成 18 年度 SPARC Japan セミナー実施記録

回	実施日	テーマ	講師 (所属)	形態	参加人数		
					パート ナー誌	その他	合計
1	平成 18 年 6 月 30 日 (金) 15:00~16:30 (NII 12 階会議室)	海外商業出版社から見た日本の学術コミュニティ	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○深田良治(シュプリング・フェアラク東京株式会社)	クローズ	8	32	40
2	平成 18 年 7 月 25 日 (火) 14:00~16:40 (NII 20 階講義室)	e-Journal の販促とライセンシング: 国内外での販売流通 の現状と海外市場における日本のジャーナルへの認識	○谷藤幹子 (物質材料研究機構) 【挨拶】 ○山下幸侍 (ProQuest) ○Lee Pit Teong (iGroup) ○深田良治(シュプリング・フェアラク東京株式会社)	クローズ	7	14	21
3	平成 18 年 9 月 29 日 (金) 13:40~17:00 (NII 12 階会議室)	Web 投稿査読システムの検証ービフォーアフターー	○林和弘 (日本化学会) 【挨拶】 ○高島麗 (日本動物学会) ○日岡康恵 (日本農芸化学会) ○水橋慶 (電子情報通信学会) 【パネリスト】 高島麗 (日本動物学会) 日岡康恵 (日本農芸化学会) 水橋慶 (電子情報通信学会) 山下和子 (化学工学会) 谷山輝恵 (物理系学術誌刊行協会) 磯野紳一 (日本機械学会) 大政健史 (日本生物工学会)	クローズ	24	21	45
4	平成 18 年 11 月 2 日 (木) 13:30~16:30 (NII 12 階会議室)	大学図書館から学術出版者への要望-COUNTER を例に してー	○武田敏子 (物理系学術誌刊行協会) 【挨拶】 ○首東誠 (広島大学図書館) ○高橋昭治 (エルゼビア・ジャパン株式会社) ○山本和雄 (茨城大学図書館)	クローズ	11	20	31
5	平成 18 年 12 月 14 日 (木) 13:30~16:30 (NII 12 階会議室)	著作権ー学会の権利、著者の権利、機関リポジトリへの 対応	○山下和子 (化学工学会) 【挨拶】 ○植村八潮 (東京電機大学出版局) ○苗村憲司 (駒澤大学、情報セキュリティ大学院大学) ○富田健市 (筑波大学附属図書館)	クローズ	15	16	31

6	平成19年1月30日(火) 13:30~16:30 (NII 12 階会議室)	e-Journal の販促とライセンス(2) - 販売プロに学ぶ 成功の秘訣 -	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶+講演】 ○林和弘 (日本化学会) ○中村康一 (ネイチャー・ジャパン)	クローズ	14	25	39
7	平成19年3月5日(月) 13:30~16:30 (NII 20 階講義室)	計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測 る	○谷藤幹子 (物理材料研究機構) 【挨拶】 ○吉村昌弘 (東京工業大学 応用セラミックス研究所) ○勝本加奈子 (東北大学附属図書館) ○富澤宏之 (文部科学省 科学技術政策研究所) ○宮入暢子 (トムソンサイエンティフィック)	クローズ	12	12	24
合計					91	140	231
平均					13	20	33

平成19年度 SPARC Japan セミナー実施記録

回	開催日時 (場所)	テーマ	コーディネータ (所属)	講師 (所属)	形態	参加状況					
						パート ナー誌	学協 会	大学 ／ 研究 機関 ／ 図書 館	企業	NII、 その他	合計
1	平成19年7月17日(火) 13:30~16:30 (NII 20階ミーティ ングルーム)	計量書誌学からジャーナル・論文 のパフォーマンスを測る-2-	谷藤幹子【司会】 (物質・材料研究機構)	○根岸正光 (国立情報学研究所) 【開会挨拶】 ○リンダ・バトラー (オーストラリア国立大 学) ○足立泰 (エルゼビア・ジャパン) ○永井裕子 (日本動物学会)	オープン	9	1	21	9	13	53
2	平成19年10月2日(火) 14:00~16:30 (NII 12 階会議室)	Web 投稿審査システムの検証パ ート3より良いシステムを目 指してー	水橋慶【司会】 (電子情報通信学会) 日岡康恵 (日本農芸化学会)	○竹川道也 (物理系学術誌刊行協会) ○日岡康恵 (日本農芸化学会) ○斉藤洋子 (国際医学情報センター) ○小山憲一 (三美印刷株式会社) ○島田昇 (勝美印刷株式会社) ○長野康幸 (株式会社ダイナコム) ○竹田政子 (エルゼビア・ジャパン株式会社) ○吉澤小百合 (シュプリング・ジャパン株 式会社) ○林和弘 (日本化学会)	オープン	18	13	9	28	6	74
3	平成19年11月2日(金) 15:00~16:45 (NII 22 階会議室)	メタデータ Publishing の現在ー 電子ジャーナル主体の製作・出版	林和弘【司会】 (日本化学会)	○林和弘 (日本化学会) ○Bruce Rosenblum (Inera Incorporated)	クローズ	11	5	1	15	5	37
特	平成19年11月9日(金) 10:30~12:00 (パシフィコ横浜アネ ックスホール第9回図 書館総合展フォーラム 第6会場)	第9回図書館総合展プレゼンテ ーション「日本の英文トップ電子 ジャーナルの挑戦ーSPARC Japan パートナー誌からの提案 ー」	尾城孝一【司会】 (国立情報学研究所)	○根岸正光 (国立情報学研究所) 【挨拶】 ○千葉博紀 (日本金属学会) ○永井裕子 (日本動物学会) ○武田敏子 (物理系学術誌刊行協会) ○小林雄一 (株式会社メディカルトリビュー ン) ○水橋慶 (電子情報通信学会) ○安達淳 (国立情報学研究所) 【閉会挨拶】	オープン	8	1	22	30	6	67

4	平成 20 年 1 月 17 日 (木) 10:00~17:00 (NII 12 階会議室)	SPARC Japan-ALPSP 特別セミナー「学術出版と学会 Journal Publishing and Scholarly Societies」	林和弘【司会】 (日本化学会)	○根岸正光 (国立情報学研究所) 【挨拶】 ○Nick Evans (Association for Learned and Professional Scholarly Publishing: ALPSP) ○Tony O'Rourke (Institute of Physics: IOP) ○John Haynes (Royal Society of Chemistry: RSC) ○Charlotte Brabants (Oxford University Press: OUP) ○Miki Matoba (OUP)	オープン	10	7	24	40	10	91
特	平成 20 年 1 月 18 日 (金) 9:30-17:00 (NII 12 階会議室)	ALPSP トレーニングコース : Introduction to Journal Publishing	林和弘【司会】 (日本化学会)	○Nick Evans (Association for Learned and Professional Scholarly Publishing: ALPSP) ○Charlotte Brabants (Oxford University Press: OUP) ○Miki Matoba (OUP)	クローズ	16	1	1	0	5	23
合計						72	28	78	122	45	345
平均						12	5	13	20	8	58

平成 20 年度 SPARC Japan セミナー実施記録

回	開催日時 (場所)	テーマ	コーディネータ (所属)	講師 (所属)	参加状況								
					パート ナー誌	学協 会	大学	大学 図書館	国立 機関	出版 ／印刷 会社	その他	NII	合計
1	平成 20 年 4 月 22 日 (火) 13:30-16:30 (NII 12 階会議室)	研究成果発表の手段としての学術誌の将来	永井裕子【司会】 (日本動物学会)	○根岸正光 (国立情報学研究所) 【挨拶】 ○土屋俊 (千葉大学文学部) ○行木孝夫 (北海道大学理学研究院) ○植田憲一 (電気通信大学レーザー新世代研究センター)	13	10	7	3	5	23	15	10	86
2	平成 20 年 6 月 24 日 (火) 13:30-17:00 (NII 20 階ミーティングルーム)	学術出版と XML 対応・日本の課題	林和弘【司会】 (日本化学会)	○林和弘【挨拶と概要説明】 (日本化学会) ○福重青史 (デジタルコミュニケーションズ) ○太宰達三 (物理系学術誌刊行センター) ○林和弘 (日本化学会)	15	6	5	6	3	33	10	5	83
3	平成 20 年 7 月 10 日 (木) 15:00-17:00 (NII 12 階会議室)	韓国コンソーシアム事情 - 海外展開を目指して -	水橋慶【司会】 (電子情報通信学会)	○水橋慶【挨拶と概要説明】 (電子情報通信学会) ○CHOI,HONAM (韓国科学技術情報研究院)	7	1	1	1	4	11	10	6	41

4	平成 20 年 9 月 2 日 (火) ～3 日 (水) (京都大学数理解析研究 所)	紀要の電子化と周辺の話 (RIMS 研究集会)	下越弘子 (日本数学会)	○三根慎二 (名古屋大学附属図書館研究開発室) ○服部哲弥 (東北大学大学院理学研究科) ○小田忠雄 (東北大学名誉教授) ○尾城孝一 (国立情報学研究所) ○行木孝夫 (北海道大学大学院理学研究院) ○戸瀬信之 (慶應義塾大学経済学部) ○橋本英樹 (大阪大学基礎工学研究科) ○林和弘 (日本化学会)	2	1	24	4	2	4	4	2	43
5	平成 20 年 10 月 14 日 (火) 14:00-17:00 (NII 12 階会議室)	日本における最適なオープンア クセスとは何か? (Open Access Day 特別セミナー)	林和弘【司会】 (日本化学会)	○林和弘 (日本化学会) 【挨拶と概要説明】 ○永井裕子 (日本動物学会) ○富田健市 (東京工業大学) ○坂東慶太 (My Open Archive) ○佐藤翔 (筑波大学)	10	7	11	7	10	19	19	7	90
6	平成 20 年 11 月 25 日 (火) 14:00-17:00 (NII 12 階会議室)	IF を越えて - さらに研究評 価の在り方を考える	永井裕子【司会】 (日本動物学会)	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○Martin Richardson(Oxford University Press) ○Jevin West (University of Washington) ○根岸正光 (国立情報学研究所)	7	6	5	0	10	15	11	7	61
7	平成 20 年 11 月 27 日 (木) 10:30-12:00 (パシフィコ横浜)	Open Access Update (第 10 回図 書館総合展・学術情報オープンサ ミット 2008 フォーラム)	山下和子【司会】 (化学工学会)	○根岸正光 (国立情報学研究所) 【挨拶】 ○永井裕子 (日本動物学会) 【概要説明】 ○Martin Richardson (Oxford University Press) ○林和弘 (日本化学会)	5	3	9	14	10	19	17	3	80
8	平成 20 年 12 月 16 日 (火) 14:00-16:45 (NII 12 階会議室)	日本で使える電子ジャーナルプ ラットフォーム	永井裕子【司会】 (日本動物学会)	○永井裕子 (日本動物学会) 【挨拶】 ○谷藤幹子 (物質・材料研究機構) ○久保田壮一 (科学技術振興機構) ○Chris Beckett (Atypon Systems) ○Louise Tutton (Publishing Technology)	6	18	5	0	6	18	16	6	75
9	平成 21 年 2 月 13 日 (金) 13:30～16:30 (NII 12 階会議室)	SPARC Japan 選定誌がやって きたこと	日岡康恵【司会】 (日本農芸化学 会)	○寿山正博 (日本機械学会) ○二階堂紀子 (電子情報通信学会) ○鈴木英則 (物理系学術誌刊行センター) ○永井裕子 (日本動物学会) 【パネリスト】 木村優 (東京大学附属図書館) 寿山正博 二階堂紀子 鈴木英則 永井裕子	8	10	6	2	1	19	10	2	58
合計					73	62	73	37	51	161	112	48	617
平均					8	7	8	4	6	18	12	5	69

9 付録:SPARC Japanパートナー誌インパクトファクター変遷表

分野	機関名	タイトル	ISSN	IF2001	IF2002	IF2003	IF2004	IF2005	IF2006	IF2007
物理系	物理系学術誌刊行センター	JOURNAL OF THE PHYSICAL SOCIETY OF JAPAN	0031-9015	1.628	1.596	1.903	1.577	1.760	1.926	2.212
		JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS	0021-4922	1.249	1.280	1.171	1.142	1.096	1.222	1.247
		Applied Physics Express	1882-0778	平成 20 年(2008 年)1 月に JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS から分離						
		PROGRESS OF THEORETICAL PHYSICS	0033-068X	1.681	2.013	2.188	1.985	2.072	1.712	1.936
情報通信系	電子情報通信学会	IEICE TRANSACTIONS ON FUNDAMENTALS OF ELECTRONICS COMMUNICATIONS AND COMPUT	0916-8508	0.346	0.336	0.374	0.318	0.330	0.312	0.287
		IEICE TRANSACTIONS ON COMMUNICATIONS	0916-8516	0.343	0.487	0.436	0.330	0.348	0.290	0.252
		IEICE TRANSACTIONS ON ELECTRONICS	0916-8524	0.529	0.571	0.530	0.425	0.479	0.508	0.436
		IEICE TRANSACTIONS ON INFORMATION AND SYSTEMS	0916-8532	0.144	0.148	0.249	0.274	0.242	0.280	0.245
		IEICE ELECTRONICS EXPRESS	1349-2543 (Online)	-	-	-	-	-	-	0.436
	情報処理学会	Journal of Information Processing IPSJ DIGITAL COURIER (前身誌)	1882-6652	IF 無し						

化学系	日本分析化学会	ANALYTICAL SCIENCES	0910-6340	0.916	0.844	1.140	1.051	1.250	1.589	1.508
	日本生物工学会	JOURNAL OF BIOSCIENCE AND BIOENGINEERING	1389-1723	0.865	0.777	0.993	0.802	0.948	1.136	1.782
	化学工学会	JOURNAL OF CHEMICAL ENGINEERING OF JAPAN	0021-9592	0.690	0.459	0.518	0.515	0.519	0.594	0.594
	高分子学会	POLYMER JOURNAL	0032-3896	0.941	0.881	0.887	1.125	1.175	1.146	1.421
	日本農芸化学会	BIOSCIENCE BIOTECHNOLOGY AND BIOCHEMISTRY	0916-8451	0.968	0.992	1.025	0.950	1.101	1.256	1.247
生物系	日本哺乳類学会	MAMMAL STUDY	1343-4152 1348-6160	IF 無し (2009 年 Web of Science に収録。IF 付与は 2 年後の予定)						
	日本哺乳動物卵子学会	JOURNAL OF MAMMALIAN OVA RESEARCH	1341-7738 1347-5878	IF 無し						
	日本動物学会	ZOOLOGICAL SCIENCE	0289-0003	0.818	0.901	0.990	1.043	0.994	1.240	1.125
	日本鳥学会	ORNITHOLOGICAL SCIENCE	1347-0558	IF 無し						
	日本古生物学会	PALEONTOLOGICAL RESEARCH	1342-8144 1880-0068	IF 無し						
	日本爬虫両棲類学会	CURRENT HERPETOLOGY	1345-5834 1881-1019	IF 無し						

数 学 系	東北数学雑誌編集委員会	TOHOKU MATHEMATICAL JOURNAL	0040-8735	0.348	0.412	0.492	0.550	0.323	0.299	0.446
	東京工業大学理工学研究科数学専攻	KODAI MATHEMATICLA JOURNAL	0386-5991 1881-5472	IF 無し						
	名古屋数学雑誌編集委員会	NAGOYA MATHEMATICAL JOURNAL	0027-7630	0.427	0.346	0.610	0.257	0.339	0.464	0.725
	日本学士院	PROCEEDINGS OF THE JAPAN ACADEMY SERIES A-MATHEMATICAL SCIENCES	0386-2194	0.282	0.250	0.179	0.253	0.170	0.256	0.238
	大阪大学大学院理学研究科数学専攻 大阪市立大学理学研究科数学専攻	OSAKA JOURNAL OF MATHEMATICS	0030-6126	0.245	0.381	0.307	0.214	0.356	0.485	0.367
	京都大学数理解析研究所	PUBLICATIONS OF THE RESEARCH INSTITUTE FOR MATHEMATICAL SCIENCES	0034-5318	0.361	0.500	0.583	0.255	0.400	0.407	0.566
	広島大学大学院理学研究科数学教室	HIROSHIMA MATHEMATICLA JOURNAL	0018-2079	IF 無し						
	日本数学会	JOURNAL OF THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN	0025-5645	0.347	0.372	0.435	0.366	0.439	0.590	0.449
系 人 文 社 会	上智大学 モニュメント・ニポニカ	MONUMENTA NIPPONICA	0027-0741 1880-1390	IF 無し						

材料系	日本金属学会	MATERIALS TRANSACTIONS	1345-9678	0.000	0.841	1.159	1.120	1.103	0.927	1.018
医学系	日本生理学会	JAPANESE JOURNAL OF PHYSIOLOGY → JOURNAL OF PHYSIOLOGICAL SCIENCES(2006 年ジャーナル名変更)	0021-521X 1880-6546	1.077	1.117	0.860	0.810	0.870	1.081	0.726
	日本アレルギー学会	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL	1323-8930 1440-1592	IF 無し						
	日本薬物動態学会	DRUG METABOLISM PHARMACOKINETICS	1347-4367 (Online)	IF 無し						
機械系	日本機械学会	JSME INTERNATIONAL JOURNAL SERIES A-SOLID MECHANICS AND MATERIAL ENGINEERING	1344-7912	0.449	0.277	0.250	0.205	0.343	0.260	0.298
		JSME INTERNATIONAL JOURNAL SERIES B-FLUIDS AND THERMAL ENGINEERING	1340-8054	0.326	0.199	0.280	0.141	0.127	0.285	0.154
		JSME International Journal Series C-Mechanical Systems, Machine Elements and Manufacturing	1344-7653	0.177	0.141	0.212	0.107	0.219	0.154	0.120
		JOURNAL OF FLUID SCIENCE AND TECHNOLOGY	1880-5558	平成 19 年（2007 年）1 月に、JSME International Journal シリーズ 3 誌から 11 誌に誌名変遷						
		JOURNAL OF THERMAL SCIENCE AND TECHNOLOGY	1880-5566							
		JOURNAL OF BIOMECHANICAL SCIENCE AND ENGINEERING	1880-9863							

		JOURNAL OF ENVIRONMENT AND ENGINEERING	1880-988X	平成 19 年（2007 年）1 月に、JSME International Journal シリーズ 3 誌から 11 誌に誌名変遷
		JOURNAL OF SOLID MECHANICS AND MATERIALS ENGINEERING	1880-9871	
		JOURNAL OF SYSTEM DESIGN AND DYNAMICS	1881-3046	
		JOURNAL OF ADVANCED MECHANICAL DESIGN, SYSTEMS, AND MANUFACTURING	1881-3054	
		JOURNAL OF POWER AND ENERGY SYSTEMS	1881-3062	
		JOURNAL OF COMPUTATIONAL SCIENCE AND TECHNOLOGY	1881-6894	
		JOURNAL OF SPACE ENGINEERING	1881-736X	
		JOURNAL OF MECHANICAL SYSTEMS FOR TRANSPORTATION AND LOGISTICS	1882-1782	